

平成15・16年度

埋蔵文化財調査年報

2006年3月

太子町教育委員会

平成15・16年度

埋蔵文化財調査年報

2006年3月

太子町教育委員会

序 文

兵庫県南西部に位置する太子町は、古代から人々が生活を営み、各時代の様々な遺跡や文化財が残されています。太子町では平成10年度から国庫補助事業として、町内に所在する埋蔵文化財の試掘確認調査を行ってしています。このたび、平成15・16年度に行った国庫補助事業埋蔵文化財試掘確認調査の報告書を刊行することができました。

試掘確認調査という限られた範囲での調査ではありますが、私たちの祖先が営んだ、それぞれの時代の生活の一端を伺い知ることができたと思います。

本報告書が祖先の残した貴重な歴史遺産を、さらに後世に伝えるための資料となり、広く活用されれば幸いです。

最後になりましたが発掘調査及び報告書作成にあたり、ご指導・ご協力いただいた方々に厚くお礼申し上げます。

平成18年3月31日

太子町教育委員会
教育長 圓尾 哲 一

例 言

1. 本書は、平成15・16年度に実施した発掘調査のうち、国庫補助事業として実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次・海野浩幸が担当した。
3. 本書の示す標高はT.Pを基準とし、方位は磁北を示す。
4. 本書の執筆・編集は、三村・海野が行った。
5. 遺物実測図の断面は、縄紋土器・弥生土器・土師器は黒抜で、須恵器・磁器は白抜で、石器は斜線で示した。
6. 本報告書に使用した図面・写真は、太子町教育委員会が保管している。

調査体制

【平成15・16年度】

事務局	教 育 長	圓尾 哲一
	教 育 次 長	山本庄一郎
	社会教育課長	森川 秀敏
	社会教育副課長	和辻 秀泰
	社会教育係長	菅田 ゆき
文化財担当	社会教育課主査	三村 修次
	同 主査	海野 浩幸

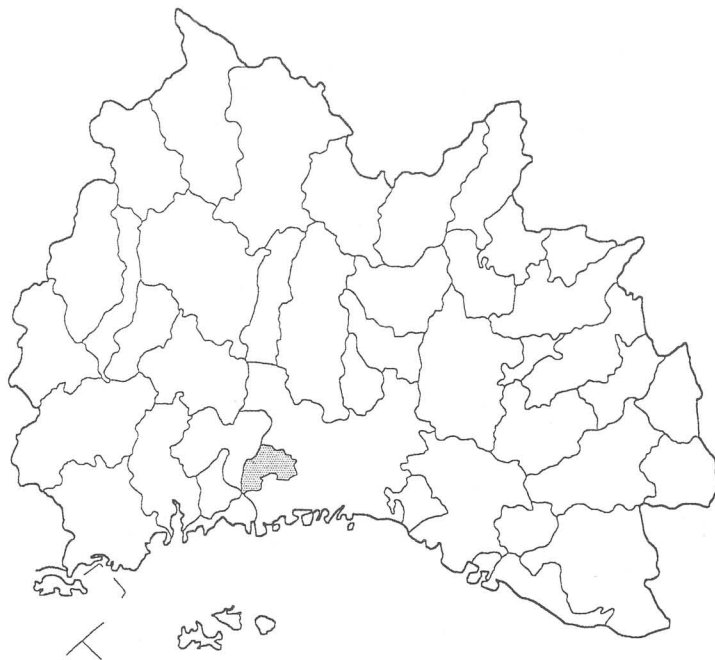


図1 太子町位置図

目 次

序 文

例 言

I 平成15年度調査概要

平成15年度調査事業一覧

平成15年度国庫補助事業調査概要

斑鳩寺西遺跡	1
船塚遺跡（第2次調査）.....	4
東南遺跡（第20次調査）	6
東保遺跡	10
東南遺跡（第21次調査）.....	13

II 平成16年度調査概要

平成16年度調査事業一覧

平成16年度国庫補助事業調査概要

東南遺跡（第22次調査）.....	20
東保高田遺跡	22
川島遺跡（大津茂川床遺跡周辺）.....	25
蓮常寺北遺跡	28
立岡南遺跡（第3次調査）.....	31
東保遺跡	34



調査風景

I 平成15年度調査概要

平成15年度では、18件の発掘調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が14件、公共事業に伴う試掘確認調査が3件、民間の開発事業に伴う本発掘調査が1件である。そのうち、5箇所の民間開発事業の試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

平成15年度発掘調査一覧

No	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	調査期間	備考
1	蓮常寺北遺跡	蓮常寺字一ノ宮	店舗建設	25599.99	289	平成15年4月7日 ～5月25日	全面調査
2	蓮常寺東遺跡	立岡字笹山	個人住宅	229.59	12	平成15年5月27日	
3	太田田中遺跡	太田字ヨフカ	宅地造成	1742.75	16	平成15年5月30日	
4	東保遺跡	東保字中ノ坪・木森	宅地造成	4879	72.2	平成15年7月17日 ～7月25日	
5	楯岩城跡	山田字大山	情報基盤整備	30	30	平成15年8月5日 ～8月11日	公共事業
6	山田大山8号墳 (聖古墳)	山田字大山	無線基地建設	325.07	34	平成15年9月1日 ～9月3日	
7	川島遺跡	太田字山ノ下	宅地造成	2926.94	36.9	平成15年9月4日	
8	筑紫大道遺跡	佐用岡字櫻ヶ坪	集会所建設	1019.86	29.7	平成15年9月16日 ～9月18日	
9	竹広遺跡	竹広字長金	防火水槽	32	32	平成15年11月13日 ～11月17日	公共事業
10	竹広遺跡	竹広字長金	公会堂建設	210	19	平成15年12月1日 ～12月2日	
11	立岡南遺跡	立岡字山崎	宅地造成	3200.6	44.8	平成15年11月25日 ～11月27日	
12	矢田部南遺跡	矢田部字書写田	宅地造成	2985.38	80.6	平成15年12月8日 ～12月11日	
13	斑鳩寺西遺跡	鶯字榎ノ本	集合住宅 国庫補助事業	2000	41.7	平成15年12月15日 ～12月24日	
14	福井大池	原字福井大池	堤防改修	3600	180	平成15年12月17日 ～16年1月28日	公共事業
15	船塚遺跡	鶯字船塚	公会堂建設 国庫補助事業	284.67	13.6	平成16年2月9日 ～2月12日	
16	東南遺跡	鶯字須田坊	宅地造成 国庫補助事業	3446.24	174.8	平成16年2月18日 ～2月27日	
17	東保遺跡	東保字木森	宅地造成 国庫補助事業	5515.93	48.9	平成16年3月1日 ～3月3日	
18	東南遺跡	鶯字下河原	宅地造成 国庫補助事業	2067.99	188.7	平成16年3月15日 ～3月16日	

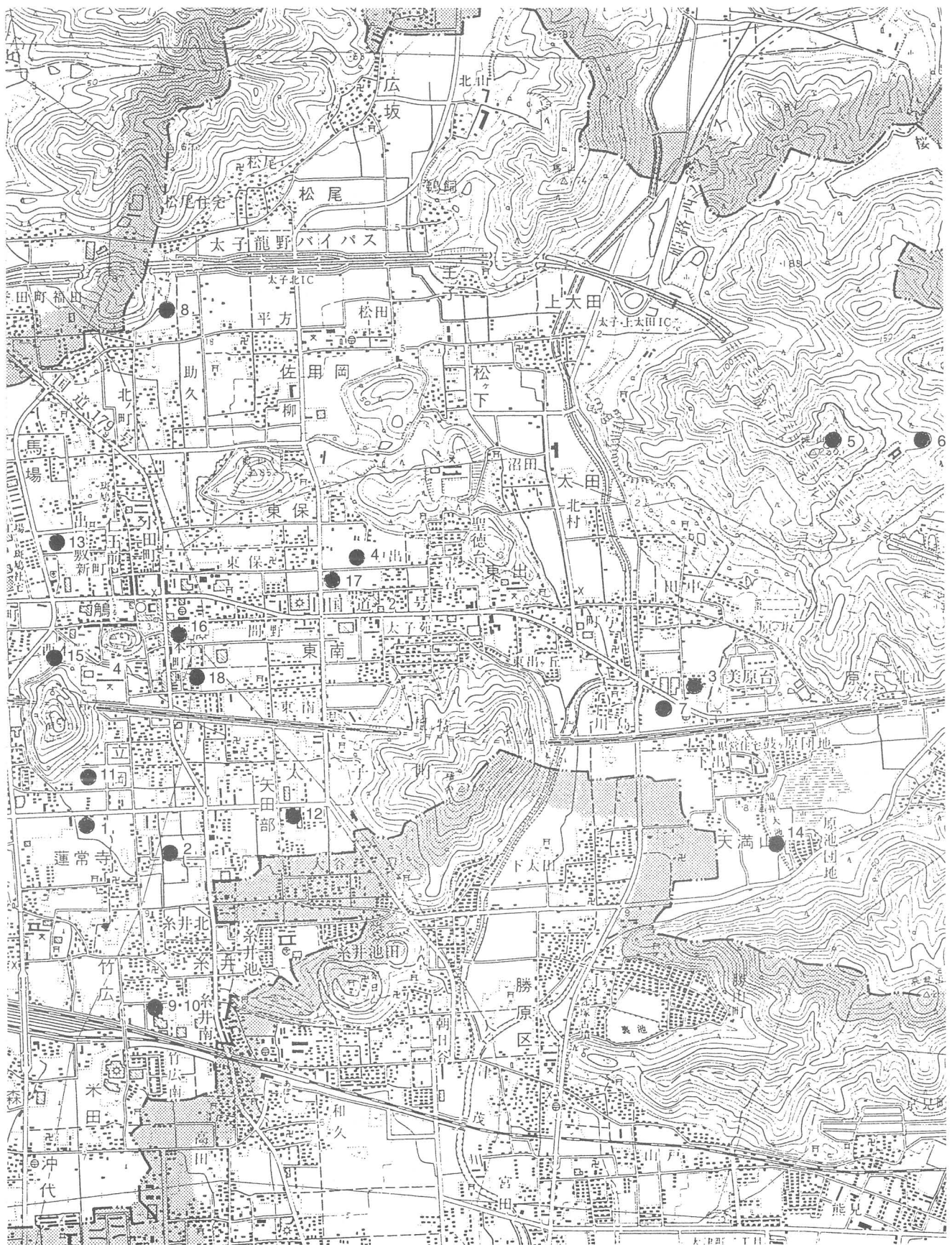


図2 平成15年度調査位置図

斑鳩寺西遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴字榎ノ本346番地-1 他1筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成15年12月15日～12月24日

5. 調査面積

41.7 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、平面実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、試掘坪配置図(1/500)、
写真記録(デジタルカメラ撮影)、
北緯(34度49分59秒)、東経(134度34分36秒)

7. 調査に至る経過

太子町鶴346番地-1周辺において宅地開発に伴う造成工事が計画され、開発予定地は周知の埋蔵文化財である斑鳩寺西遺跡の南西端付近に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地は、標高14.5m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、開発予定地内に7箇所の試掘坪を設定して実施し、No.6坪については拡張を行った。

調査地の土層は、北端に設定したNo.1・6坪では耕土(20cm)、灰黄色土・床土(6～10cm)で橙黄色礫混じり砂質土あるいは黄褐色土の地山に達するが、南部のNo.2～5・7坪では床土の下で、淡灰色粘質土、褐灰色粘質土、暗灰色粘質土となっており、南端部のNo.5坪では地表下8cmで湧水が見られた。

淡灰色粘質土とその下層の褐灰色粘質土が遺物包含層を形成している。

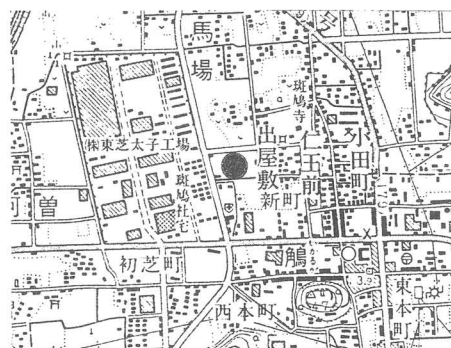


図3 調査位置図(1/25,000)



図4 試掘坪配置図(1/2,000)

No.6 坪では、黄褐色土・地山の南西方向への落ち込み片部と、それに添う幅90cm、深さ20cmの溝を検出した。

9. 出土遺物

遺物は、淡灰色粘質土から褐灰色粘質土にかけてからコンテナ1箱分が出土し、土師器・須恵器・備前焼・輸入陶磁器片がある。

10. まとめ

調査の結果、西及び南側の試掘坪では湿地状を呈する土層が確認され、調査地点が斑鳩寺西遺跡の立地する微高地の南西端に位置することが判明した。斑鳩寺西遺跡の範囲を確定するための貴重な資料を得ることが出来た。

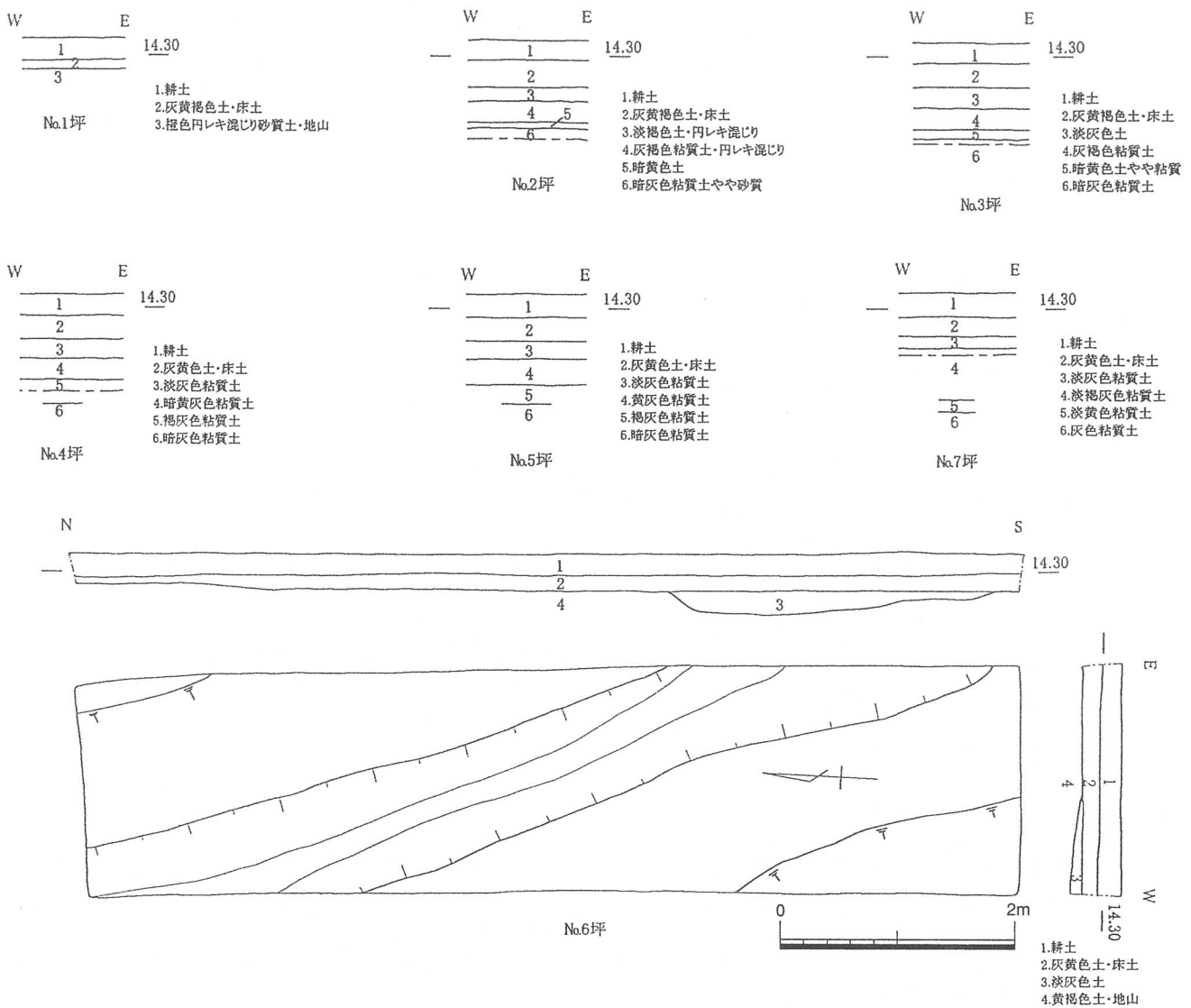
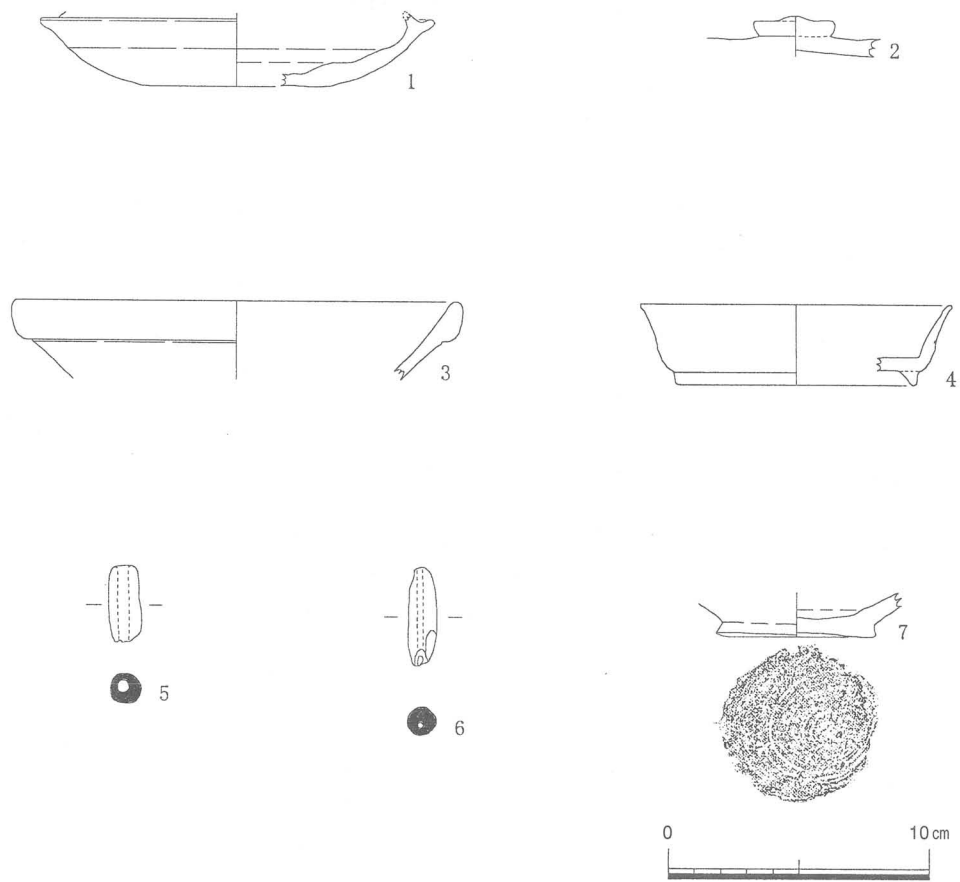


図5 土層断面図・平面図



1 No.2 坪、2～4 No.3 坪、6・7 No.4 坪
 (1・2・4・7 須恵器、3 白磁、5・6 土錘)

図6 出土遺物実測図



図7 No.6 坪 (南から)

船塚遺跡（第2次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鵜字船塚 2 1 9 - 6、8

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年2月9日～2月12日

5. 調査面積

13.6 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、試掘坪配置図(1/200)、写真記録(デジタルカメラ撮影)、
北緯(34度49分41秒)、東経(134度35分35秒)



図8 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

船塚遺跡は、標高104.5mを測る立岡山の北麓に所在する古墳時代後期の遺跡で、宅地造成に伴う第1次調査では、3棟の方形竪穴住居と円形と方形の古墳の周溝が確認され、円墳からは須恵器とともに須恵質の円筒埴輪が出土している。

今回同遺跡の西に隣接する地域において公会堂の新築工事が計画されたため、遺構及び遺物包含層等の有無を確認するため確認調査を実施した。

周辺は標高13.4m前後を測る水田であるが、調査地は盛土整地されている。

8. 調査の概要

調査は、公会堂建物建設予定部分に2×2mの試掘坪を3ヵ所設定して実施した。

調査地の土層は、上層から造成盛土(80~90cm)、耕土(20~25cm)で黄褐色土~淡褐色土の地山に達する。

No 1 坪で現代の電信柱設置に伴う攪乱坑が検出されただけで、遺構は検出されなかった。

遺物は、No 2 坪で弥生式土器と須恵器の細片が各1点ずつ出土しただけである。

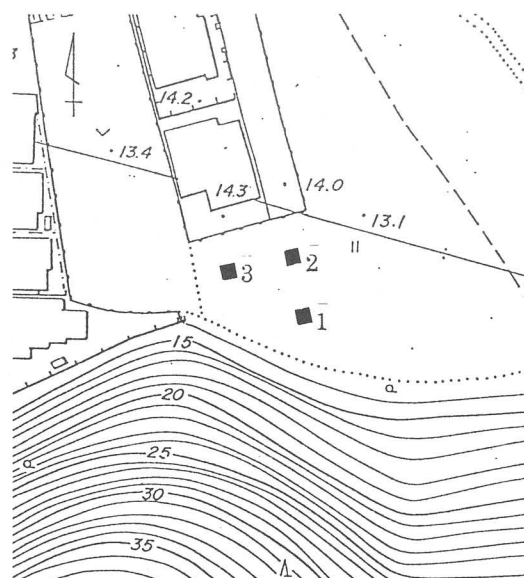


図9 試掘坪配置図(1/1,000)

9. まとめ

調査の結果、遺構・遺物包含層は検出されなかった。調査地点は立岡山裾に接しており、耕土直下で地山面となっていることから後世の耕作等により削平を受けているものと考えられる。

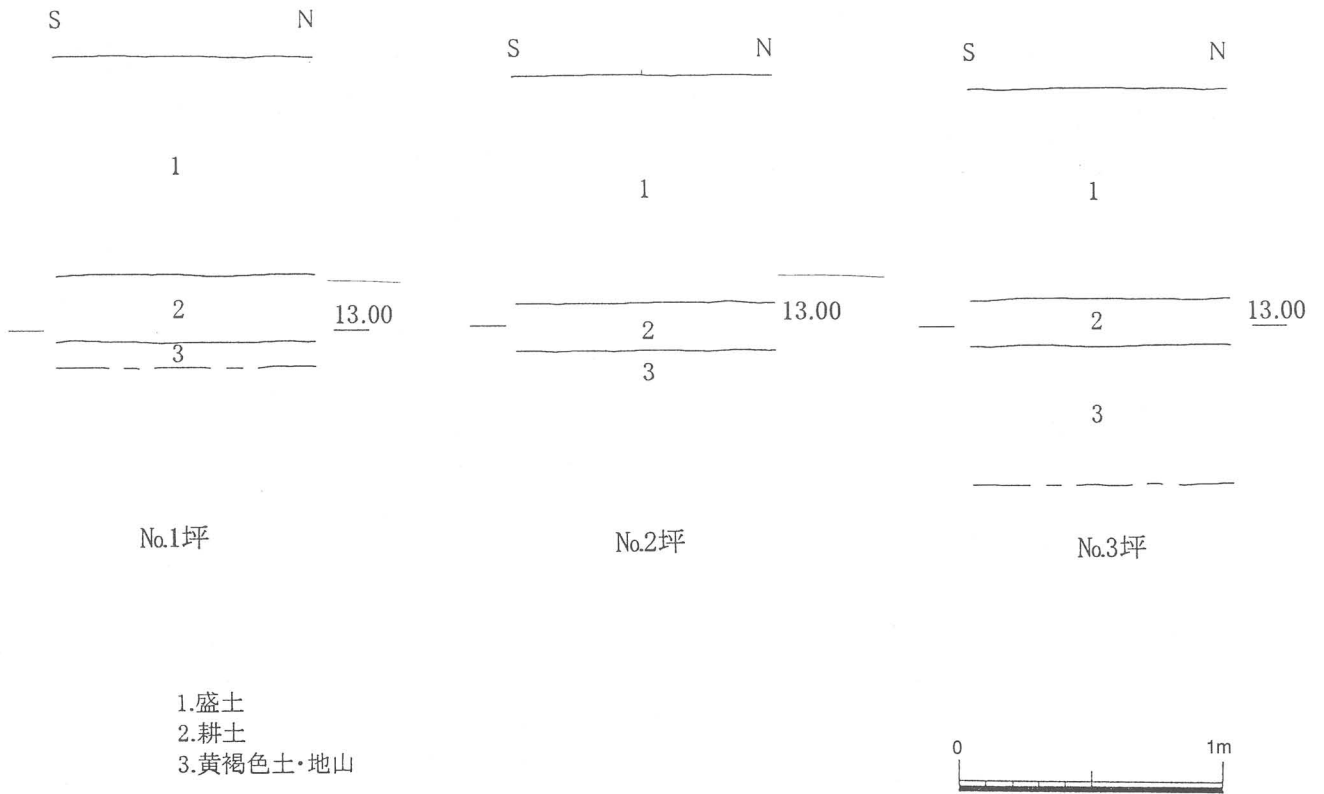


図10 土層断面図



図11 No.1坪



図12 No.2坪

東南遺跡（第20次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鵜字須円坊72-1 他9筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年2月18日～2月27日

5. 調査面積

174.8 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)、写真記録(カラーネガ/リバーサル35mm、カラーリバーサル120mm・6×7版、デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分44秒)、東経(134度34分58秒)

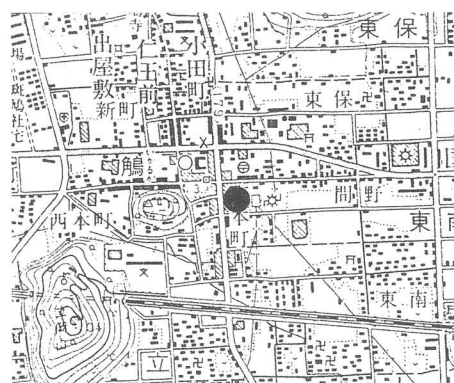


図13 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

東南遺跡は、太子町のほぼ中央部に所在する縄文時代後期から中世にかけての遺跡で、現在までに町民体育館建設をはじめ、県道・町道建設、開発工事等により十数次の調査が実施されている。

今回同遺跡の包蔵地内において分譲宅地開発に伴う造成工事が計画されたため、遺構・遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。

調査地は標高13.6m前後を測り、現況は植木畑である。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内に2×60mのトレンチ(1トレンチ)1本、2×15mのトレンチ(2トレンチ)1本の計2本のトレンチを設定して実施した。

調査地の基本土層は、1トレンチでは上層から植木畑真砂土盛土(10~20cm)、耕土(6~20cm)、明灰黄色床土(8~18cm)、暗黄色褐色土(6cm)、褐

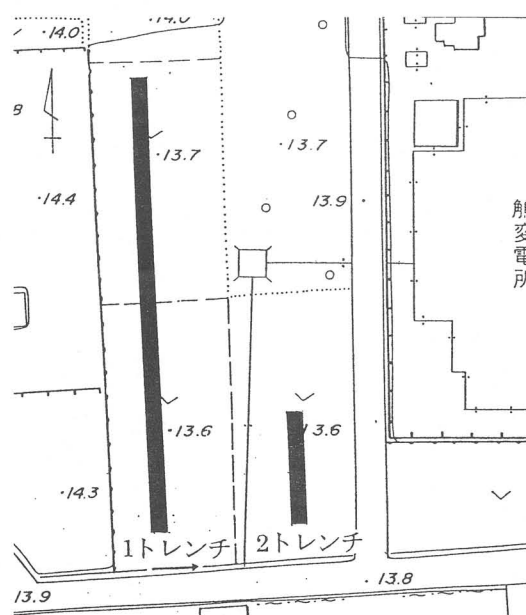


図14 トレンチ配置図(1/1,000)

灰色土混じりの黄灰色（20～40cm）、茶褐色土（14～30cm）で黄褐色土・地山となっている。2トレンチでは植木畑真砂土盛土（10cm）、耕土（20cm）、真砂土（2～10cm）、淡灰色土・旧耕土（2～8cm）、明灰黄色床土（10cm）、褐灰色土（6cm）、黄色土（10～20cm）、茶褐色土（12～20cm）で黄褐色土・地山となっている。遺構は、1トレンチ北半部で土坑・ピットを検出したが、2トレンチでは遺構は検出されなかった。遺物は、2トレンチの瓦粘土採掘土坑から近世陶磁器と須恵器の小片が数点出土しただけで、1トレンチの遺構からの出土はなかった。

9. まとめ

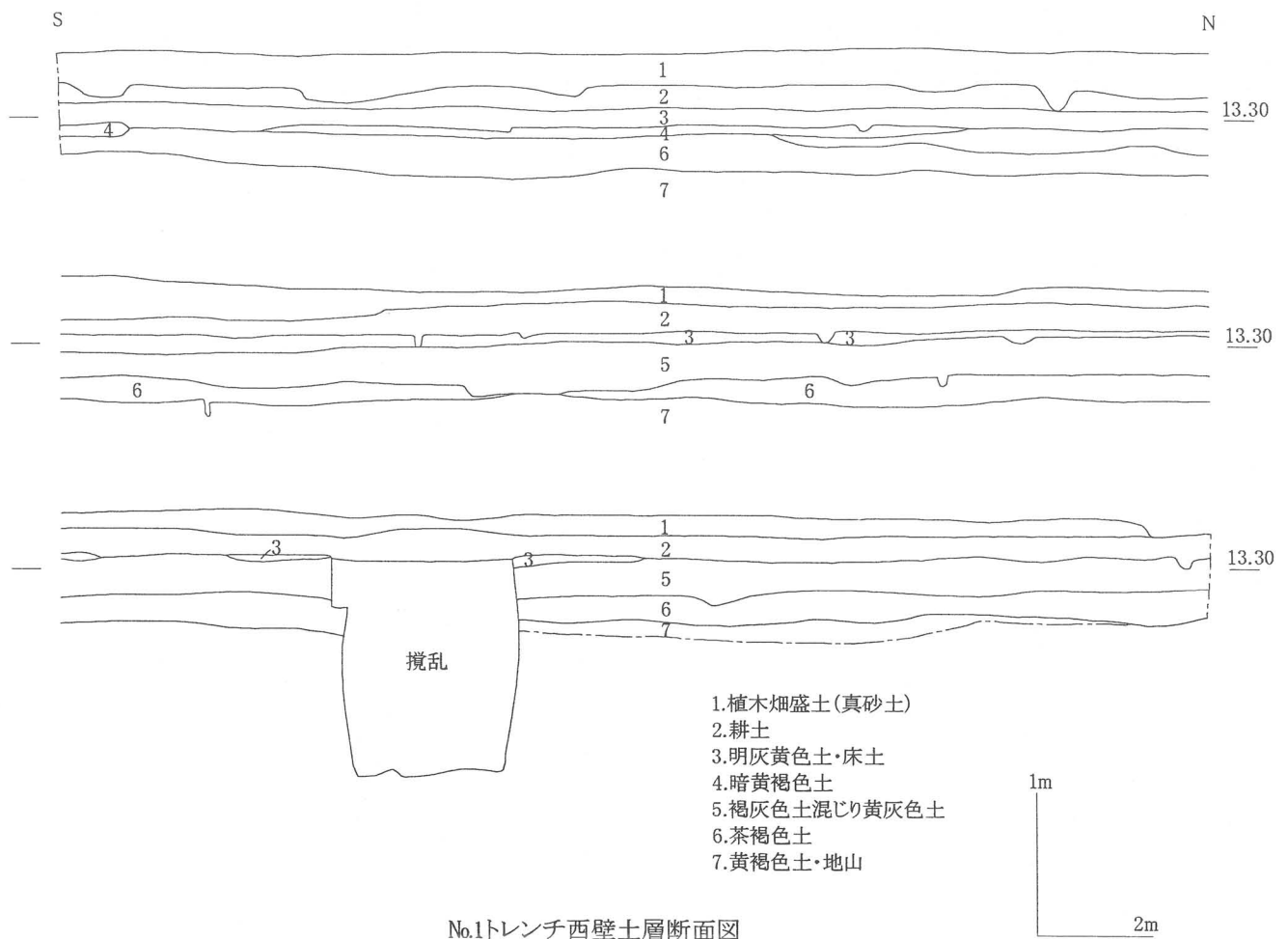
調査の結果、1トレンチ北半部で土坑・ピットを検出した。遺構からの遺物の出土はなかったが、埋土の観察から縄紋時代後期のものと考えられる。また、調査地区内は周辺部での調査状況と同様に、瓦粘土採掘土坑が濃密度に存在する。今回の調査では遺構が希薄なことと、縄紋時代の遺物包含層を形成する茶褐色土層に遺物が一切包含されていないことから、調査地点は遺跡の西側縁辺部に位置するものと考えられる。



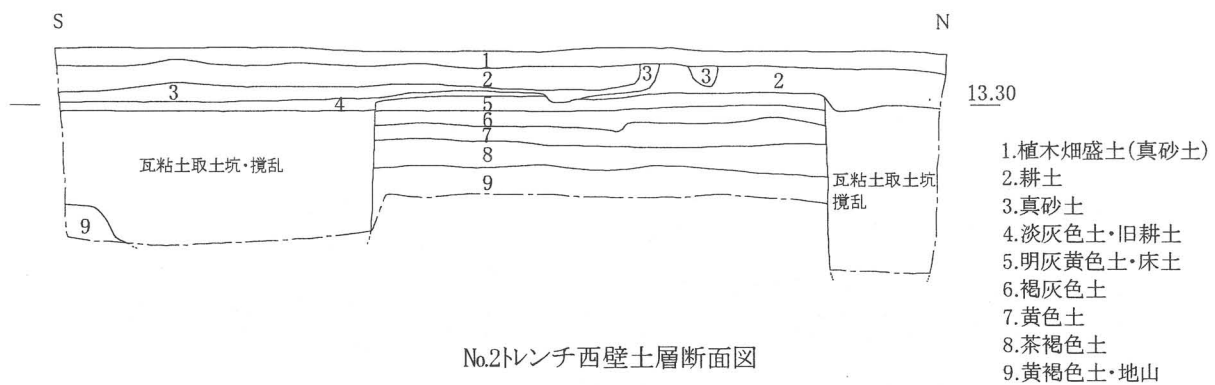
図15 1トレンチ全景（北から）



図16 1トレンチ・土坑（東から）



No.1トレンチ西壁土層断面図



No.2トレンチ西壁土層断面図

図17 土層断面図

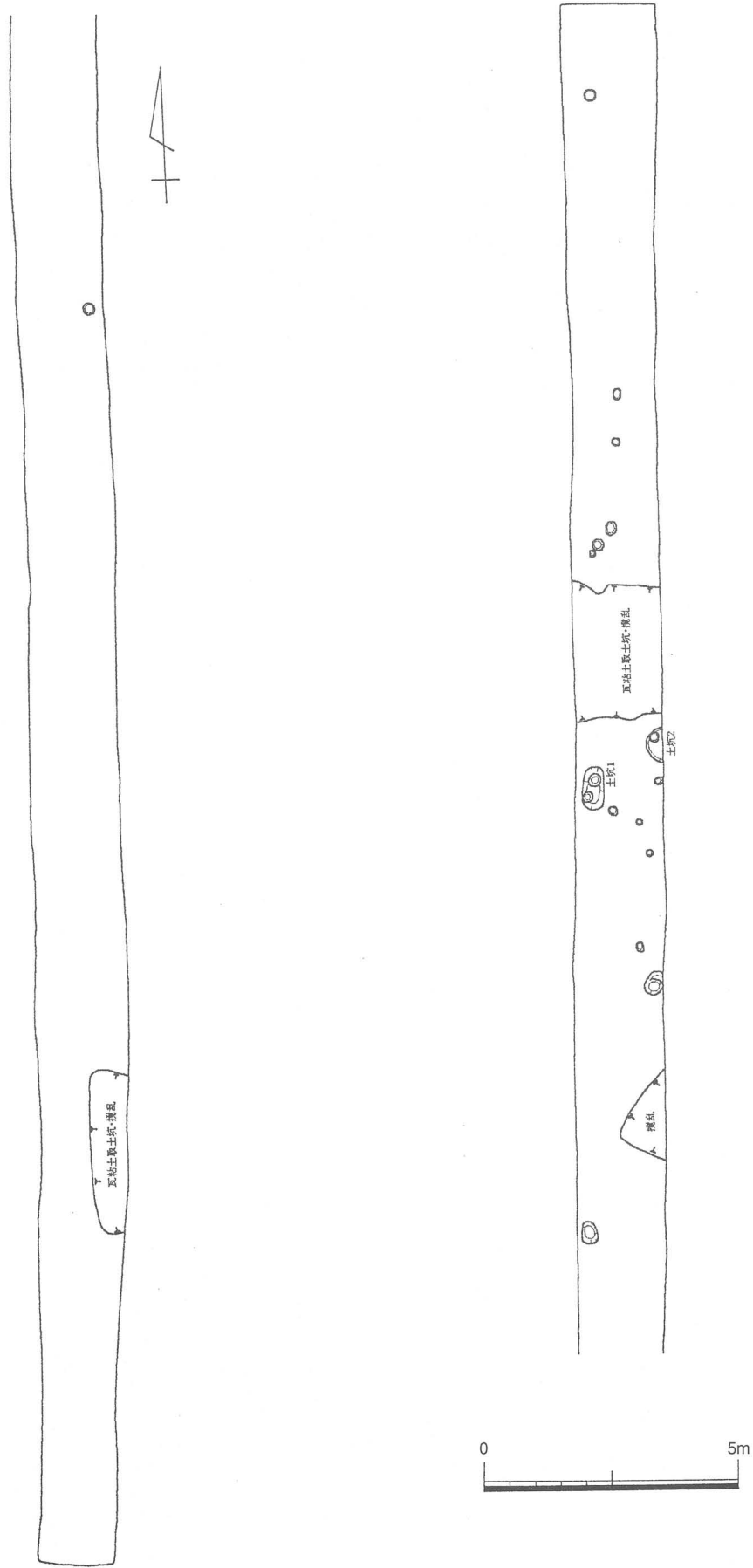


図18 1 トレンチ平面図

東保遺跡

1. 所在地

揖保郡太子町東保字木森403番1 他7筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年3月1日～3月3日

5. 調査面積

48.9 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、試掘坪配置図(1/300)

写真記録(カラーネガ35mm・デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分53秒)、東経(134度35分24秒)

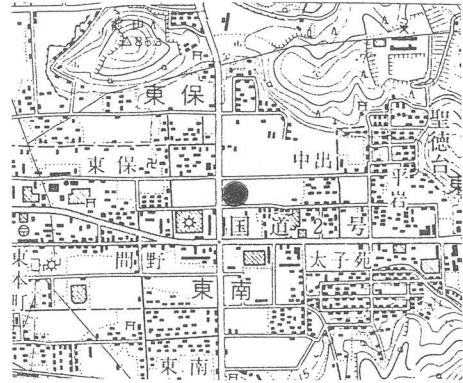


図19 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

今回、周知の埋蔵文化財である東保遺跡の包蔵地内で宅地開発が計画され、当該地は東保遺跡の南西端部にあたることから遺構・遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。

調査地周辺は、標高11.40m前後を測る水田地であるが、調査対象地の北側の大半は蓮根畑となっている。

8. 調査の概要

調査地の北側は蓮根畑で調査が困難なため、南側の畑作地及び休耕地に2×2mの試掘坪を8カ所設定して実施した。なお、No1・2坪では条里地割に伴う溝の検出が予測されるため、No1坪では4m、No2坪では3mを東側にそれぞれ拡張した。

調査地の土層は、上層から耕土(20~30cm)、床土(4~10cm)、淡灰黄色~灰黄色土(14~30cm)、茶褐色土(20~40cm)で黄褐色土・地山となっているが、西端部のNo1坪では茶褐色土の下で褐色砂質土、No2坪では灰黄色土の下で小円礫混じり暗褐色

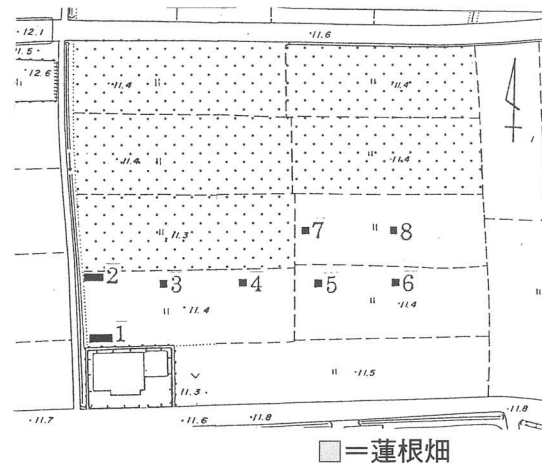


図20 試掘坪配置図(1/2,000)

土となっており、No.2 坪の暗褐色土層はボーリングステッキによる探査では1 mを超えても同様な状況であった。

遺構は、No.1 坪で北西方向に走る溝1 条を検出しただけで、予測された条里地割に伴う溝は検出されなかった。

溝は最大幅1 m、深さ26cmを測り、断面形は逆台形を呈する。埋土は灰色砂礫の単一土層である。弥生式土器の小片がビニール袋に半分程度が出土した。遺物は、No.1 坪の溝から出土した物以外、他の試掘坪からの出土は無かった。

なを、調査地西側の水路について、その改修工事施工時に立会い調査を実施した。立会い調査の結果、No.1 坪で検出された溝の続きを検出し、溝が北西方向に延びることを確認した。

9. まとめ

調査の結果、南西端に設定したNo.1 坪で弥生時代後期と考えられる北西方向に走る溝1 条を検出するに止まった。これまでに実施してきた調査の成果と合わせると、調査地周辺には集落が存在する可能性は低いと考えられる。

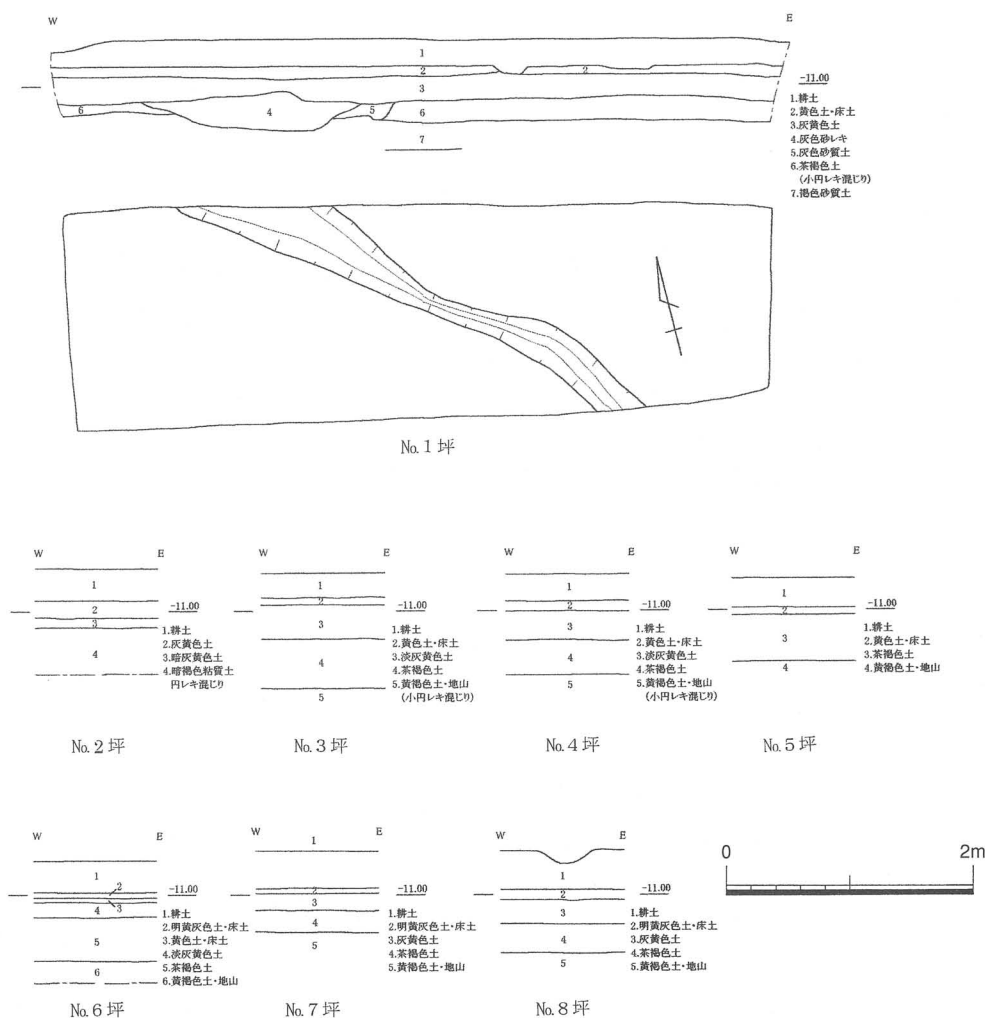


図 21 土層断面図・平面図

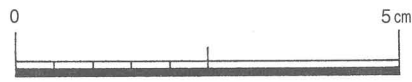
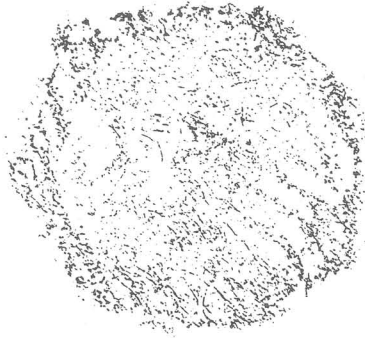
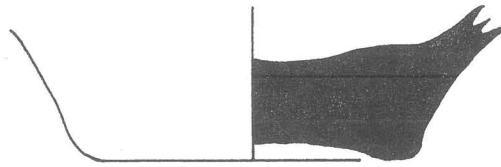


図 22 No. 1 坪出土遺物実測図



図 23 No. 1 坪全景（東南から）



図 24 No. 3 坪土層

東南遺跡（第21次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鵜字下河原52番1の一部、
53番の一部

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年3月15日～3月25日

5. 調査面積

183.7 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/200)、
写真記録(カラーネガ35mm/120mm・6×7版、デジタルカメラ撮影)
北緯(34度49分42秒)、東経(134度34分59秒)

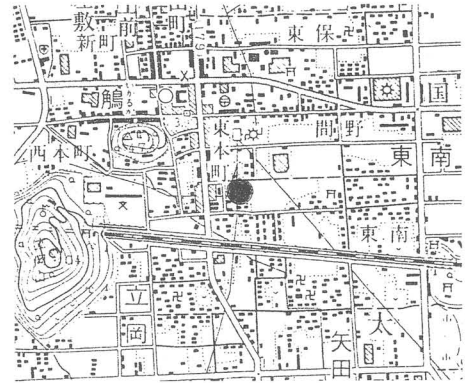


図25 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

周知の埋蔵文化財である東南遺跡の包蔵地内である鵜字下河原52番1において、宅地開発に伴う造成工事が計画され、開発予定地は、平成11・12年度に兵庫県教育委員会が県道(主)太子御津線改良工事に伴う発掘調査を実施した地点の西約20mの所に隣接することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。

調査地は、標高12.6 m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内に2.5×5 mのトレンチを4箇所設定して実施した。調査地の基本土層は、北半に設定した1・2トレンチでは耕土(30cm)直下で黄褐色土・地山に達しているが、3トレンチでは耕土(30cm)、床土(12cm)、明灰黄色土(18cm)、茶褐色土(20~40cm)で黄色土・地山となっており、4トレンチでは床土(10~20cm)、茶褐色土(10~35cm)で黄色土・地山となっている。

遺構は、2トレンチでピット1基が検出された。

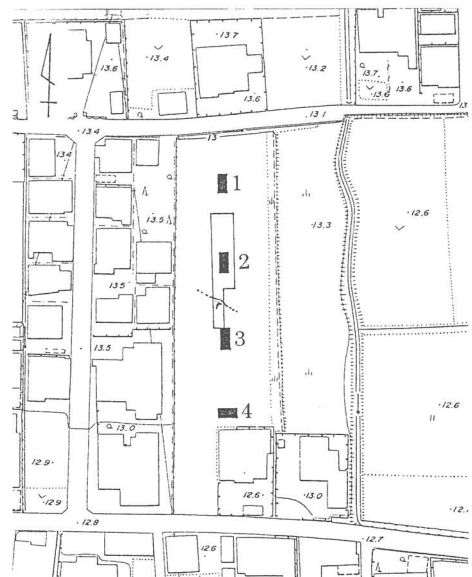


図26 トレンチ配置図(1/2,000)

そのため2トレンチを拡張するとともに、3トレンチでの落ち込みの肩部を確認するため2～3トレンチ間の拡張を行った。拡張の結果、新たにピット5基を検出した。落ち込みは、3トレンチの北約7m付近から南西方向に向かって落ち込んでいることが確認された。

遺物は、2トレンチ拡張部分で、地山上面から縄紋式土器がビニール袋に半分程度が出土しただけで、ピットや、3・4トレンチで確認された茶褐色土層からの出土は無かった。

なを、1トレンチ及び4トレンチで地山の断ち割りを実施したが、下層の縄紋時代の遺構面は存在しないことが確認された。

9. まとめ

調査の結果、調査地北半でピット6基を検出しただけである。また、調査地は中央付近から南東方向へ落ち込み、谷状の地形を呈することが確認された。調査地は、遺構が希薄なことから遺跡の西側縁辺部に位置するものと考えられる。また、北半部は耕土直下で地山面に達していることから、後世の耕作に伴い大きく削平を受けていることが窺がえる。

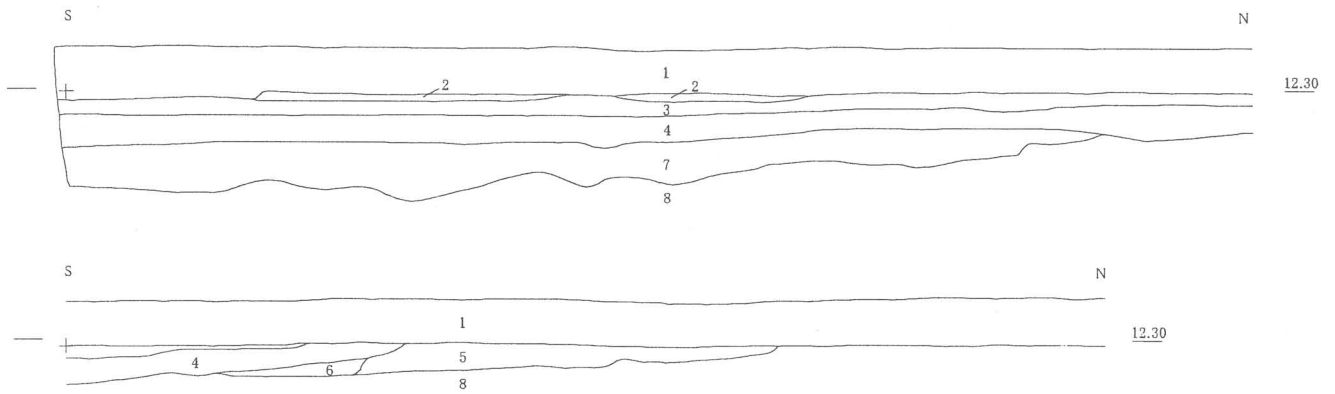
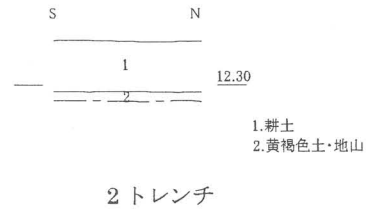
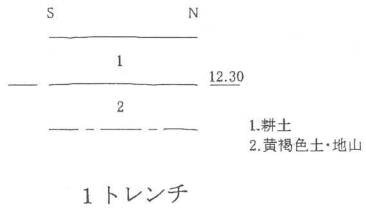
今回の調査では、検出された遺構・遺物ともわずかであったが、東南遺跡の範囲の把握や、古代の地形を復原するうえで貴重な資料を得ることが出来た。



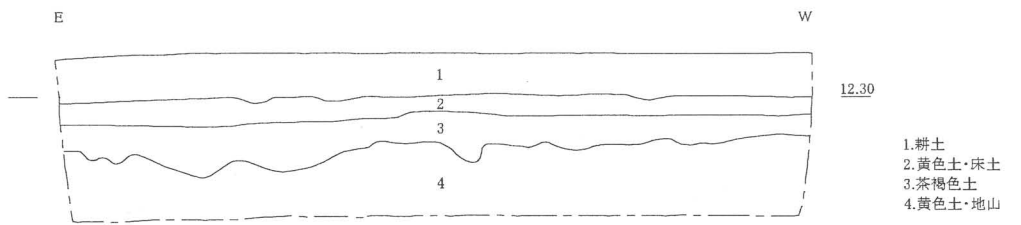
図27 2トレンチ全景（南から）



図28 3トレンチ土層



- 1. 耕土
- 2. 灰色土混じり黄褐色土
- 3. 黄色土・床土
- 4. 明灰黄色土
- 5. 灰色土混じり黄色土
- 6. 灰色土混じり明黄色土
- 7. 茶褐色土
- 8. 黄色土



- 1. 耕土
- 2. 黄色土・床土
- 3. 茶褐色土
- 4. 黄色土・地山

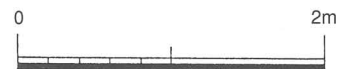


図 29 土層断面図

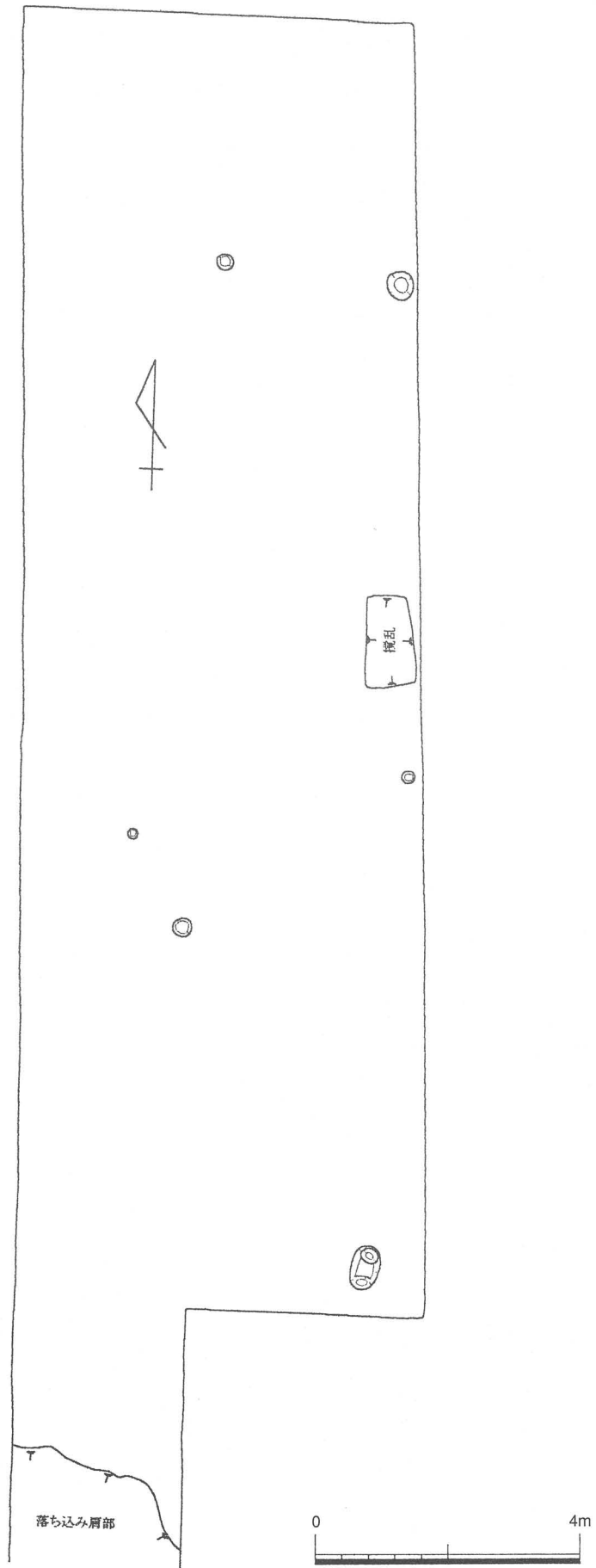


図 30 2 トレンチ平面図

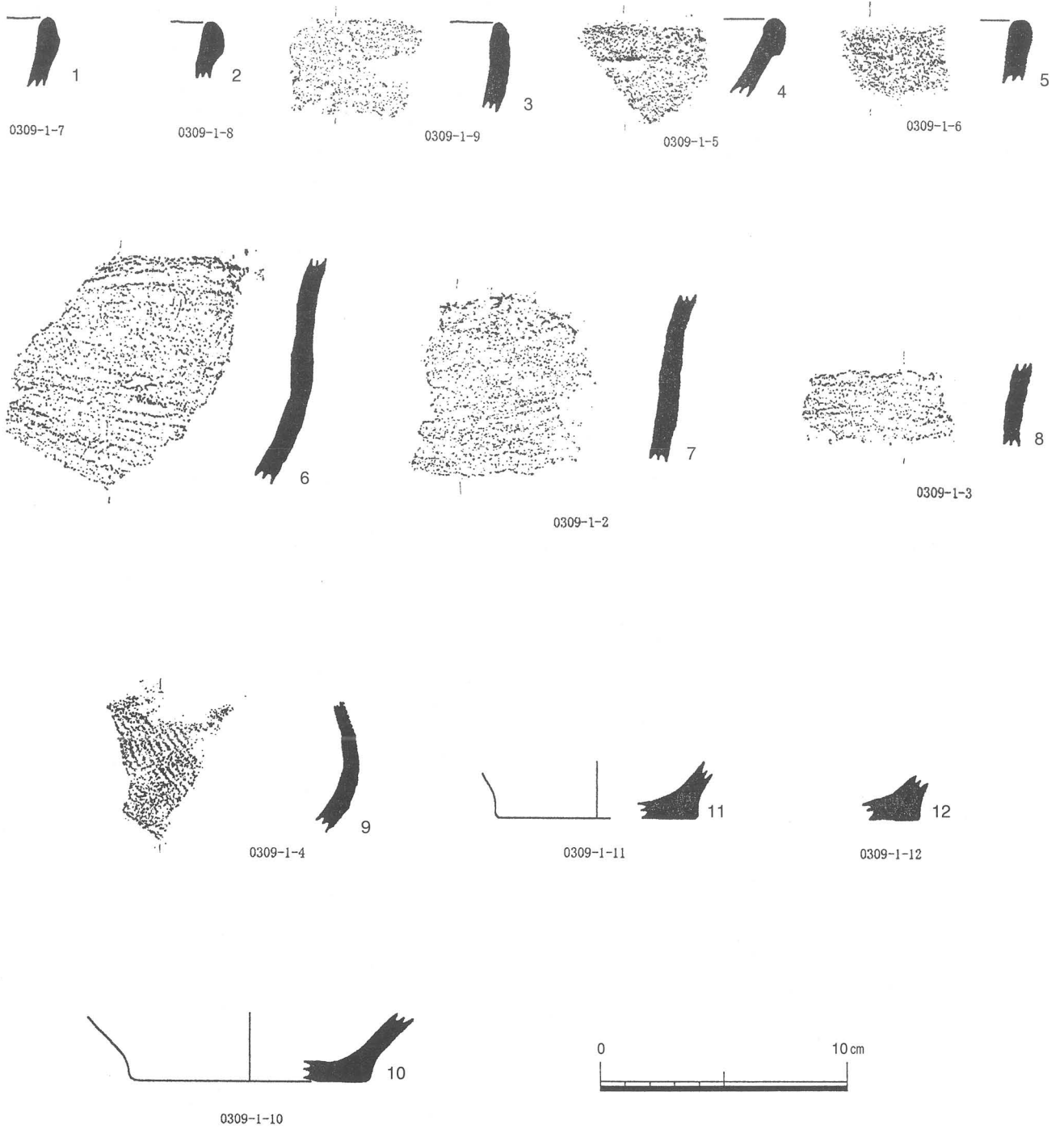


図 31 2 トレンチ出土縄紋土器実測図

Ⅱ 平成16年度調査概要

平成16年度では、12件の発掘調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が10件、公共事業に伴う試掘確認調査が1件、民間の開発事業に伴う本発掘調査1件である。そのうち、6箇所民間開発事業の試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

平成16年度発掘調査一覧

No	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	調査期間	備考
1	東南遺跡	東南字佐田	宅地造成 国庫補助事業	587.4	28	平成16年5月11日 ～5月12日	
2	東保高田遺跡	東保字宗田	宅地造成 国庫補助事業	1322.88	38	平成16年5月24日 ～5月27日	
3	東保高田遺跡	東保字宗田	宅地造成	1322.88	102	平成16年7月22日 ～7月30日	全面調査
4	川島遺跡	太田字アンメ	宅地造成 国庫補助事業	2691.43	106	平成16年8月2日 ～8月5日	
5	蓮常寺北遺跡	蓮常寺字一ノ宮	宅地造成 国庫補助事業	2958.13	93	平成16年10月1日 ～10月8日	
6	立岡南遺跡	立岡字山崎	宅地造成 国庫補助事業	2687.19	82	平成16年11月25日 ～11月27日	
7	東保遺跡	東保字中ノ坪	宅地造成 国庫補助事業	1889.29	37	平成16年12月9日 ～12月10日	
8	矢田部遺跡	矢田部字才ノ上	防火水槽	42	42	平成16年12月20日 ～12月24日	公共事業
9	斑鳩寺南遺跡	鵜字中宮寺	宅地造成	8464.49	548.2	平成16年12月22日 ～17年1月31日	
10	城山遺跡	鵜字植竹	宅地造成	259	8	平成17年1月20日	
11	田中遺跡	太田字五反田	宅地造成	1246.06	12	平成17年2月4日	
12	立岡東遺跡	立岡字小畑	宅地造成	2187	48	平成17年2月14日 ～2月18日	

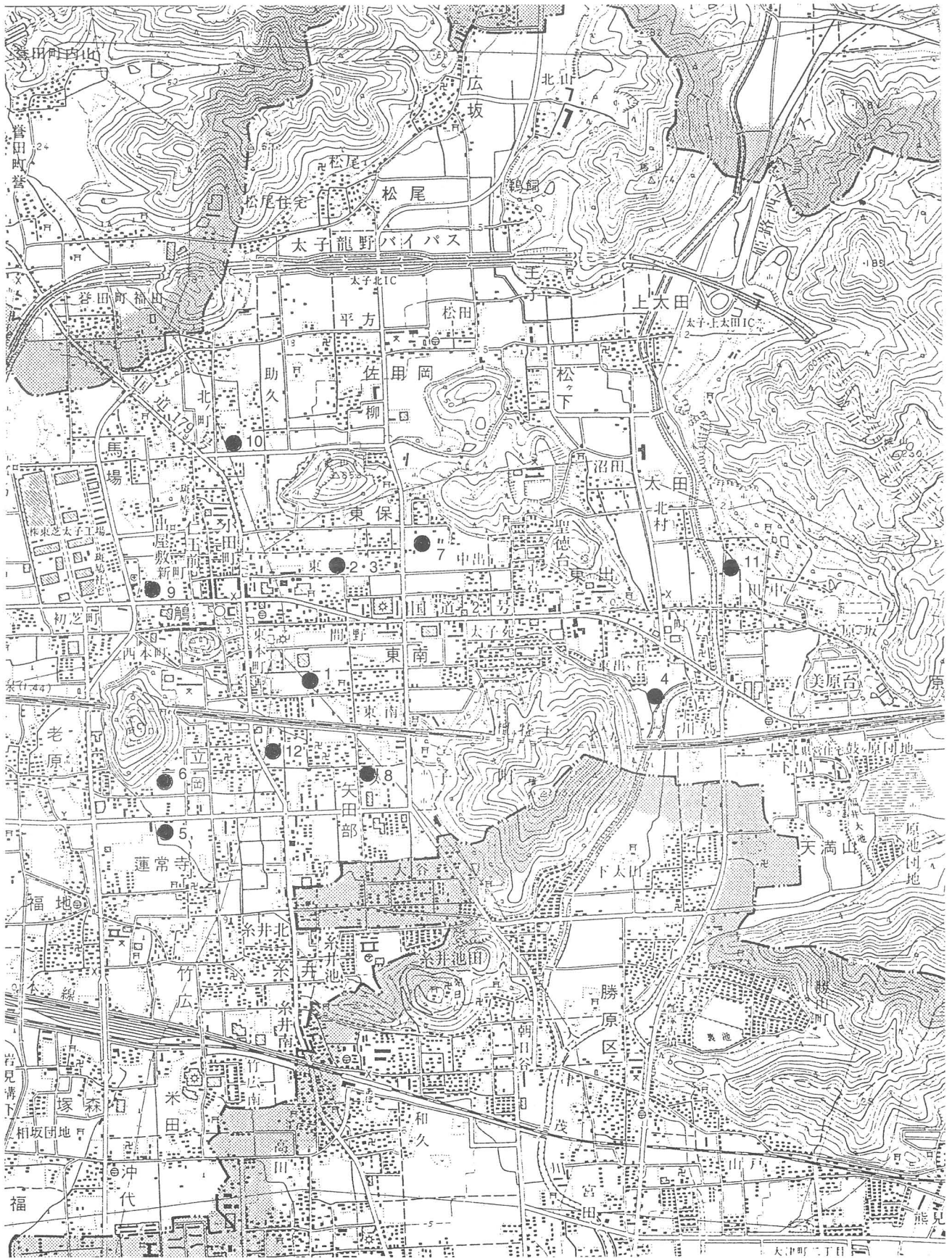


図 32 平成 16 年度調査位置図

東南遺跡（第22次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東南字佐田60-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年5月11日～5月12日

5. 調査面積

28 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、調査区配置図(1/200)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分39秒)、東経(134度35分6秒)

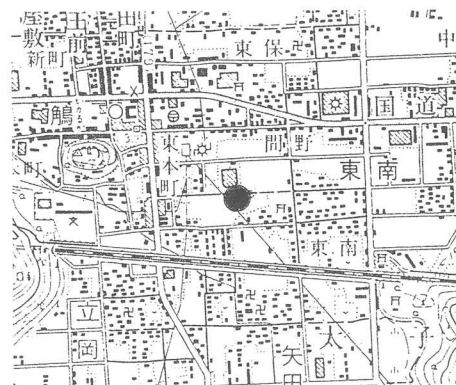


図33 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

東南遺跡は縄紋時代後期から中世にかけての遺跡で、今回その包蔵地内である東南字佐田60-1において宅地開発に伴う造成工事が計画されたため、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地周辺は、標高11.6～11.8 mを測る水田であるが、調査対象地は畑として利用されている。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内に1.3×4 mの試掘坪4カ所と、2×2 mの試掘坪2カ所を設定して実施した。

調査地の土層はNo 1～3坪では、耕土(約20cm)、黄色土・床土(10～12cm)、褐灰色土(10～24cm)で黄褐色土・地山に、No 4坪では、耕土(約20cm)、黄色土・床土(約8 cm)、暗褐灰色土(約12cm)、褐灰色土(22cm)で黄褐色土・地山に、No 5・6坪では、耕土(22～24cm)、黄色土・床土(4～6 cm)、褐灰色土(14～24cm)、淡黄色土(8～16cm)で黄褐色土・地山となっており、調査地の地山面は南方に向かって緩やかに傾斜している。

遺構及び遺物包含層は、各試掘坪とも検出されず、遺物の出土もなかった。

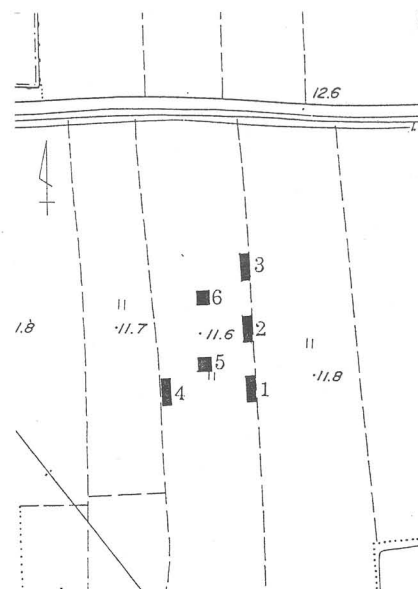


図34 試掘坪配置図(1/1,000)

9. まとめ

調査の結果、遺構及び遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかったことから、今回の調査地点は、遺跡の南東側の縁辺部に位置するものと考えられる。

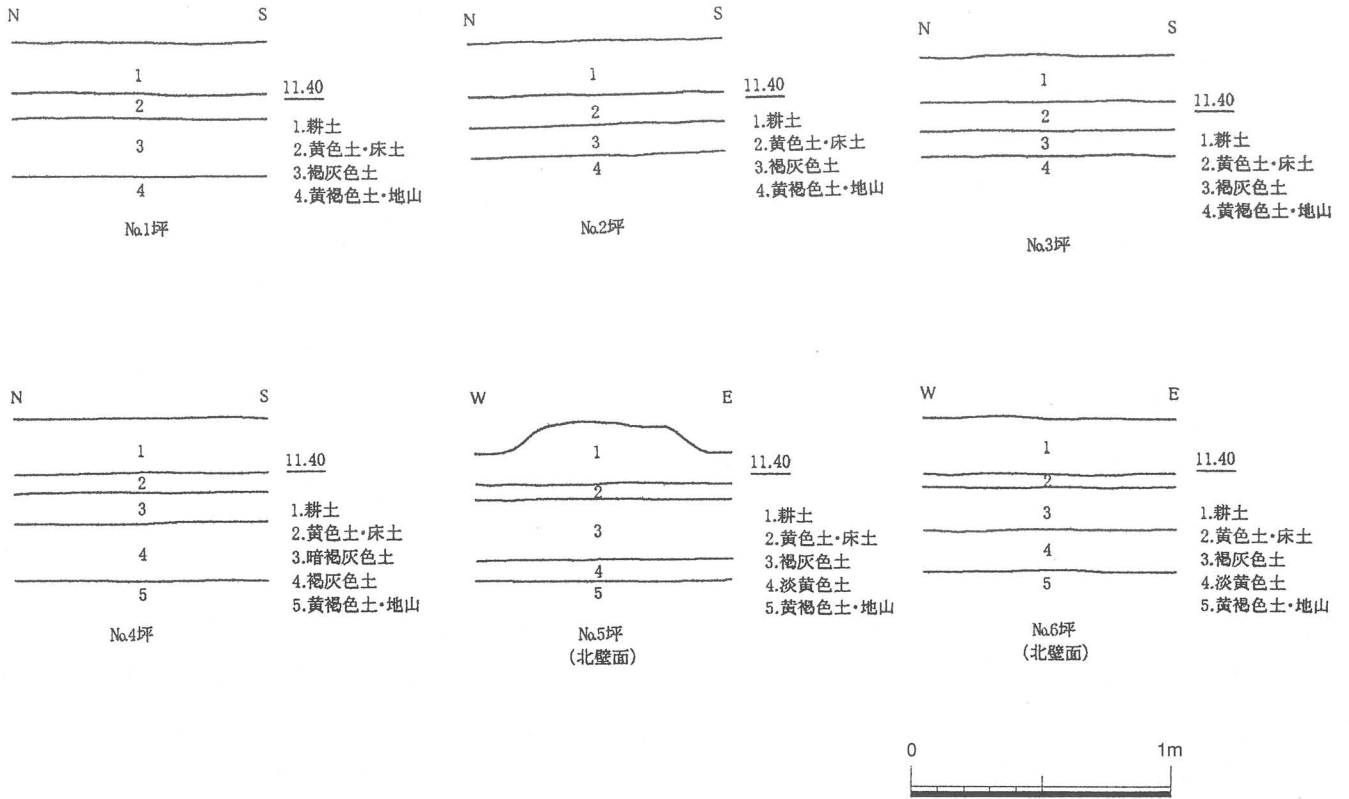


図 35 土層断面図



図 36 No.3 坪



図 37 No.4 坪

東保高田遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東保字宗田136番1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年5月24日～5月27日

5. 調査面積

38 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、調査区配置図(1/200)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分54秒)、東経(134度35分12秒)

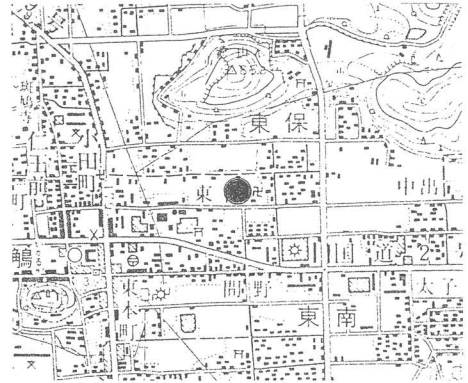


図38 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

東保高田遺跡は、東保集落の南及び西側に広がる集落遺跡で、これまでに町道改良工事及び民間宅地開発等に伴う発掘調査で、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての遺構・遺物が検出されている。

今回、同遺跡の包蔵地内において集合住宅建築が計画されたため、遺構及び遺物包含層の確認のため確認調査を実施した。調査地は、標高12.6 m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、開発予定地内に2×2 mの試掘坪を8ヵ所設定して実施したが、南側に設定したNo. 7・8坪で遺構が検出されたため、両坪間にNo. 9坪を追加設定した。

No. 1坪 土層は上層から、耕土(30cm)、黄褐色灰色土(8~20cm)、灰褐色土(12~26cm)で円礫混じりの灰色砂となる。遺構は検出されなかった。

No. 2坪 土層は上層から、耕土(30cm)、黄橙

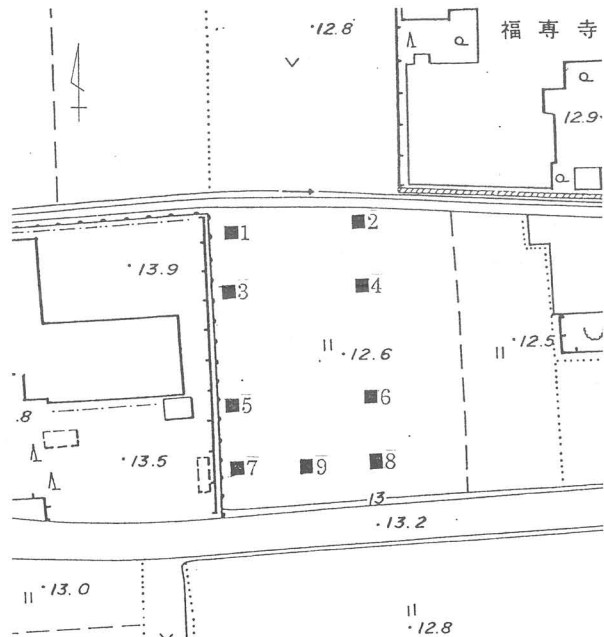


図39 試掘坪配置図(1/1,000)

色土・床土（4cm）、褐灰色土（14～30cm）、灰褐色土（14～26cm）で灰色細砂となる。遺構は検出されなかった。

No 3 坪 土層は上層から、耕土（30cm）、淡黄褐色土（24～40cm）で円礫混じりの灰色砂となる。遺構は検出されなかった。

No 4 坪 土層は上層から、耕土（30cm）、黄橙色・床土（約2cm）、黄褐灰色土（12～20cm）、灰褐色土（6～14cm）で灰色細砂となる。遺構は検出されなかった。

No 5 坪 土層は耕土（30cm）直下で黄褐色土・地山となる。遺構は検出されなかった。

No 6 坪 土層は上層から、耕土（30cm）、黄橙色土・床土（約4cm）、灰褐色土（24～30cm）で淡黄褐色細砂質土・地山となる。遺構は検出されなかった。

No 7 坪 土層は上層から、耕土（約30cm）、黄橙色土・床土（約2cm）で黄褐色土・地山となる。試掘坪北端で溝状の遺構が検出されたため、北側への拡張を行った。検出された溝は東西方向に走り、幅60cm、深さ30cmを測る。溝埋土から、弥生式土器・土師器の小片が出土した。

No 8 坪 土層は耕土（30cm）直下で黄褐色土・地山となる。遺構は東西方向の溝を検出した。溝は幅1.3～1.5m、深さ20cmを測る。溝埋土から、土師器・須恵器の小片が出土した。

No 9 坪 No 7・8坪で遺構が検出されたため、両坪間に追加設定した坪である。土層は上層から、耕土（30cm）、黄橙色土・床土（約4cm）で黄褐色土・地山となる。遺構は東西方向の溝を検出した。

溝は幅1.25～1.4m、深さ20cmを測る。溝埋土から、弥生式土器・土師器・須恵器の小片が出土した。

9. まとめ

調査の結果、調査地南端部で条里地割に添う東西方向の溝を検出した。また、調査地の旧地形が東北側へ落ち込んでいることが判明した。東方約300mの地点で実施した東保遺跡の調査では、低湿地状の地形である調査成果が得られており、今回の調査地点は東保高田遺跡の立地する微高地から旧河道あるいは後背湿地への移行地点に位置するものと考えられる。

なを、溝検出箇所は建物建築予定部分にあたり、地盤改良が遺構検出面以下にまで及ぶため、その部分の発掘調査を実施するよう事業者側と協議した。



図40 No.7坪（西から）

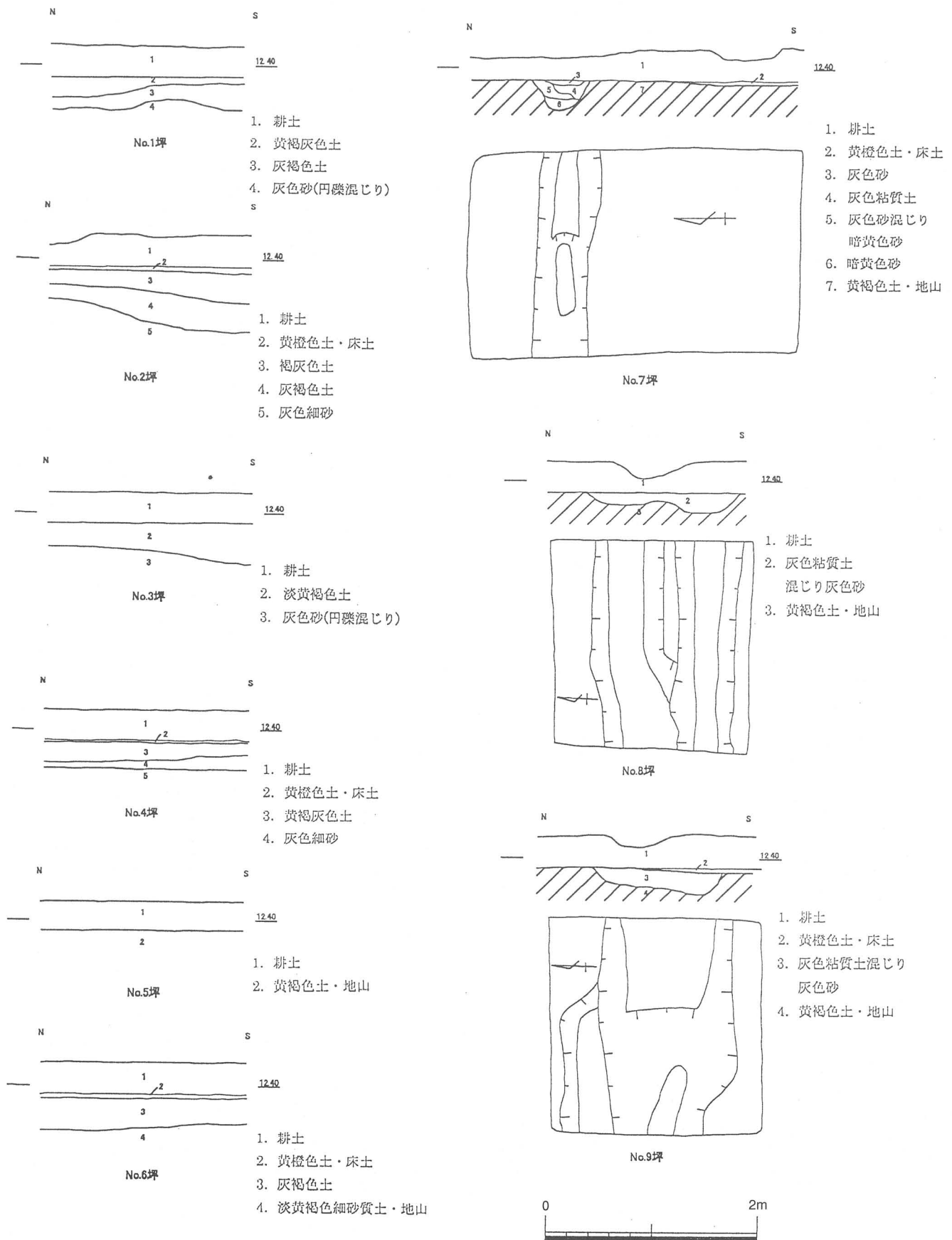


図 41 土層断面図・平面図

川島遺跡（大津茂川床遺跡周辺）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町太田字アンメ 2 2 8 2-1 他 5 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年 8 月 2 日～平成16年 8 月 5 日

5. 調査面積

106m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)、遺物実測図(1/1)、

写真記録(デジタルカメラ撮影)、

北緯(34度49分37秒)、東経(134度36分 5 秒)

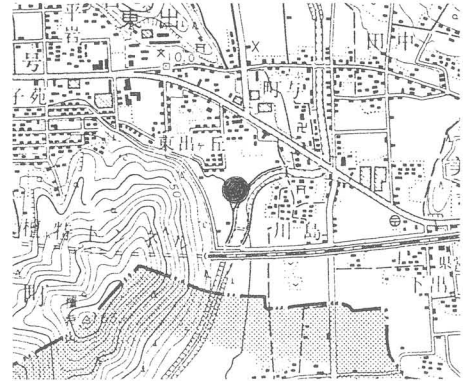


図 42 調査位置図 (1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町太田字アンメ2282-1他5筆において宅地造成工事が計画され、当該地は大津茂川が川島集落の西を迂回した後、南流するカーブ部分の右岸に位置し、南に隣接して鹿・高床建物を描いた絵画土器が出土した大津茂川床遺跡が所在することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため試掘確認調査を実施した。

調査地は標高 8 m 前後を測る休耕田である。

8. 調査の概要

調査は 3 × 5 m のトレンチを 7 箇所設定して施した。

調査地の基本土層は、耕土 (20～28cm)、灰褐色砂質土 (4～6 cm)、明灰色粘質土 (8～10cm) で淡黄色粘質土・地山となるが、南側に設定したNo 1～4 トレンチでは、明灰色粘質土の下層で淡褐色細砂質土 (70～100cm) が厚く堆積し、その下層で青灰色細砂質～粘質土 (100cm以上) となっている。また、No 6 トレンチでは地山面が東側へ急激に落ち込んでおり、灰色粘質土 (20cm以上) 及び黒灰色粘質土 (20～60cm) が堆積して

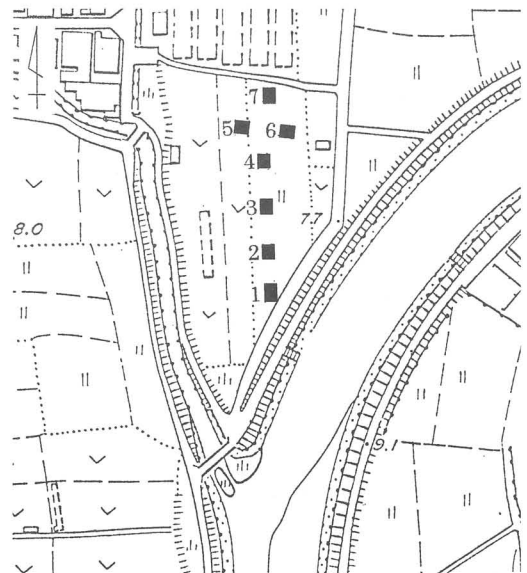


図 43 トレンチ配置図 (1/2,500)

いるのが確認された。各トレンチとも遺構は検出されなかった。

遺物は、No.4 トレンチの明灰色粘質土層から弥生時代中期の土器片と、中世の須恵器片 1 点がビニール袋に 1 袋分が出土しただけである。弥生式土器はあまり磨耗を受けていないことから、隣接する大津茂川床遺跡、あるいは川島遺跡からの流れ込みによるものと考えられる。

9. まとめ

調査の結果、北端に設定したNo.5～7 トレンチで淡黄色粘質土の地山面が検出されたが、南側に設定したNo.1～4 トレンチでは地山面は検出されず、細砂質土及び粘質土の堆積が確認された。

今回の調査地点は大津茂川旧河道の一部、あるいはその影響を受けた低湿地帯であったと考えられる。

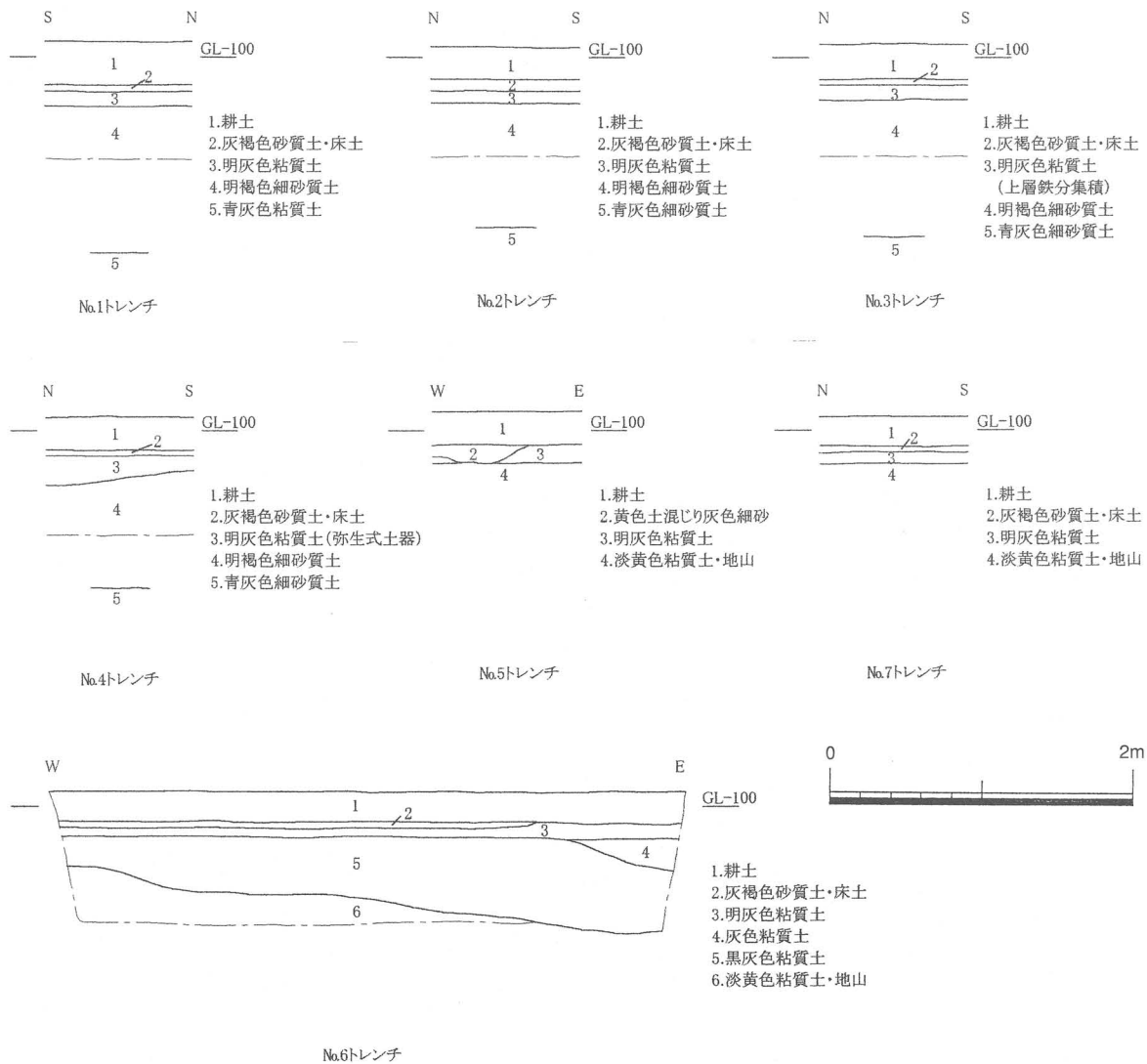
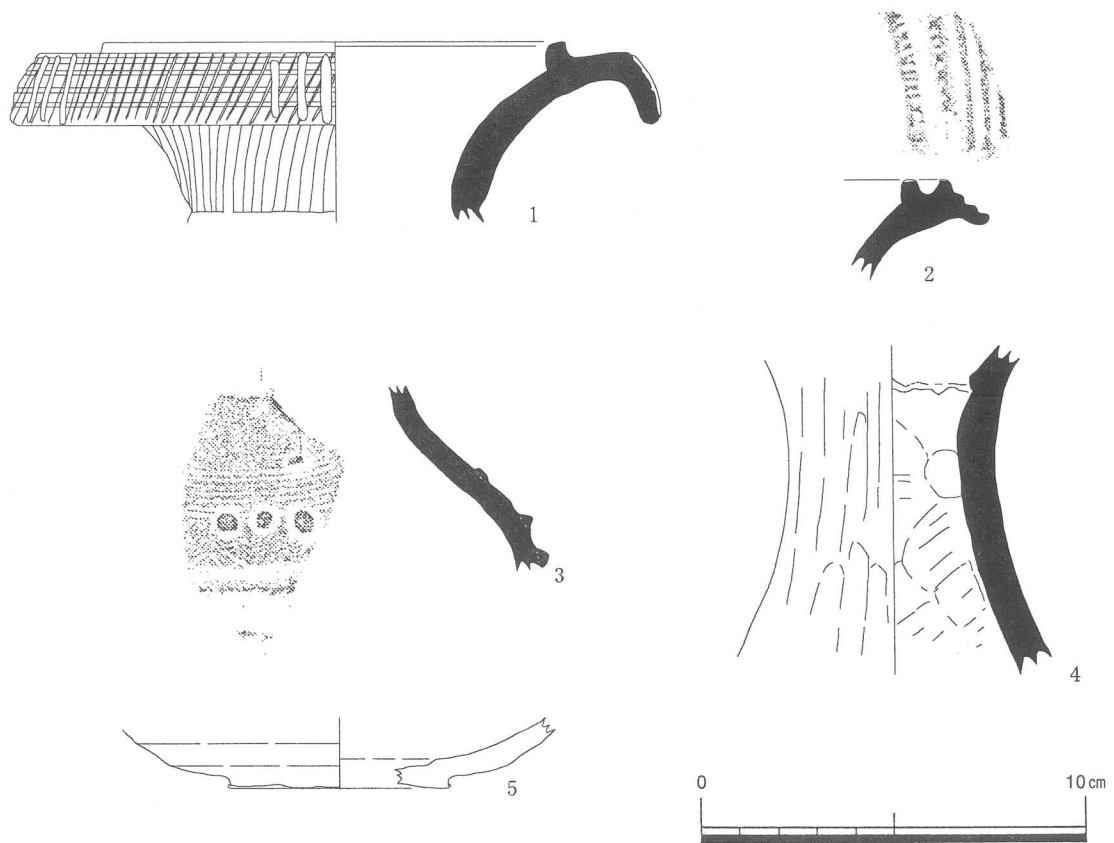


図 44 土層断面図



1～4 弥生式土器、5 須恵器
 図 45 No. 4 トレンチ出土遺物実測図



図 46 No. 2 トレンチ土層

蓮常寺北遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町蓮常寺字一ノ宮106番6 他

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年10月1日～10月8日

5. 調査面積

93m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/300)、遺物実測図(1/1)、
写真記録(デジタルカメラ撮影)、
北緯(34度49分17秒)、東経(134度34分41秒)

7. 調査に至る経過

今回、蓮常寺北遺跡の包蔵地内である当該地において、宅地開発に伴う造成工事が計画されたため、遺物包含層及び遺構の確認を目的に試掘調査を実施することにした。

調査地は、標高10.5 m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内に3×4 mのトレンチを7カ所設定して実施した。

調査地の基本土層は、上層から耕土(約20cm)、明灰黄色土・床土(6～14cm)、灰黄～黄色土・床土(2～10cm)で淡灰褐色砂質土あるいは淡褐色砂質土、淡褐色砂礫となっている。

遺物は、各トレンチから土師器・須恵器片がポリ袋に一袋分ずつが出土したが、遺構は、各トレンチとも検出されなかった。



図47 調査位置図(1/25,000)



図48 トレンチ配置図(1/1,000)

9. まとめ

調査の結果、土師器・須恵器片等の遺物が出土したが、遺構は検出されなかった。今回の調査地点は、蓮常寺北遺跡の縁辺部に位置するものと考えられる。

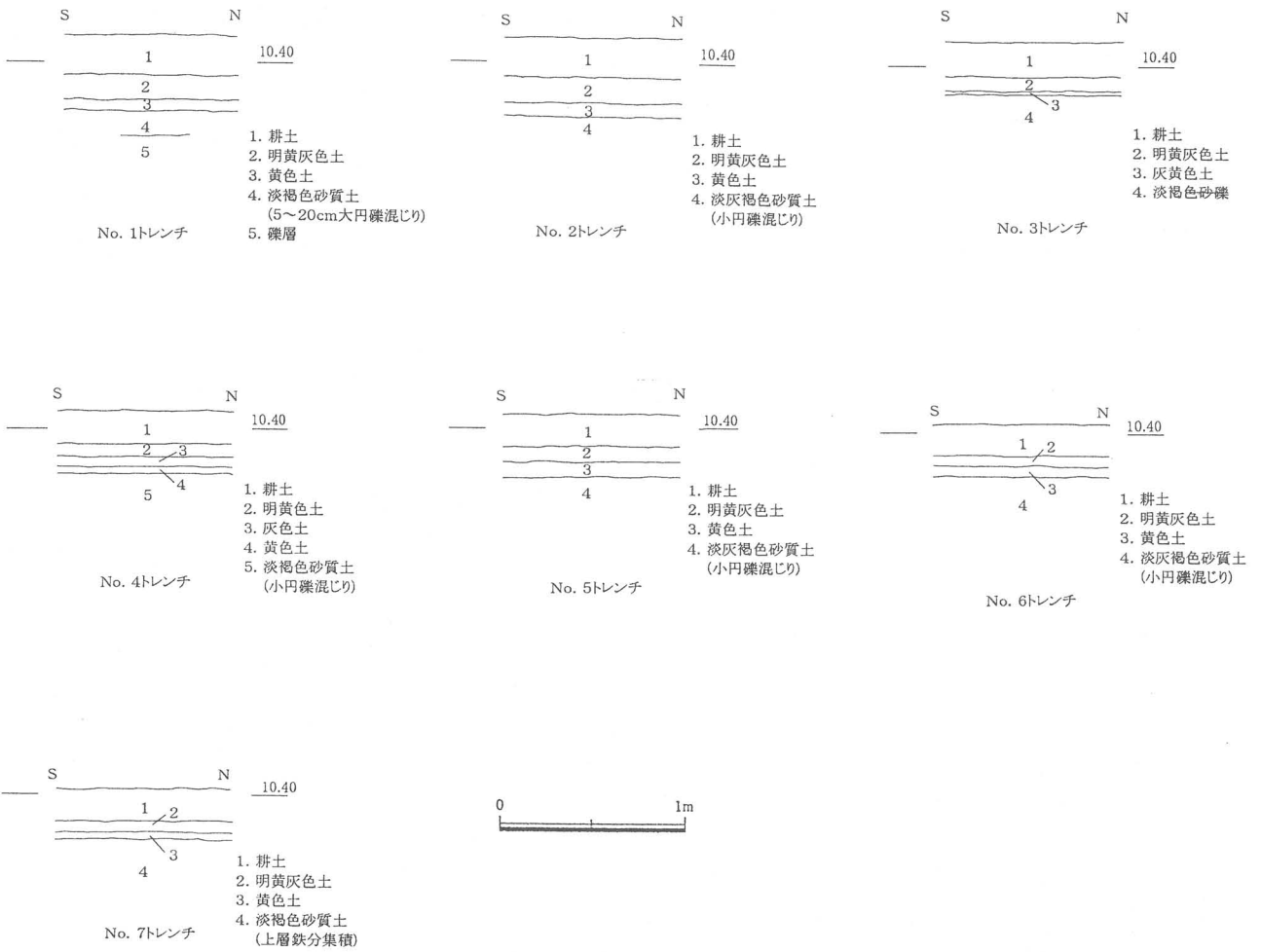


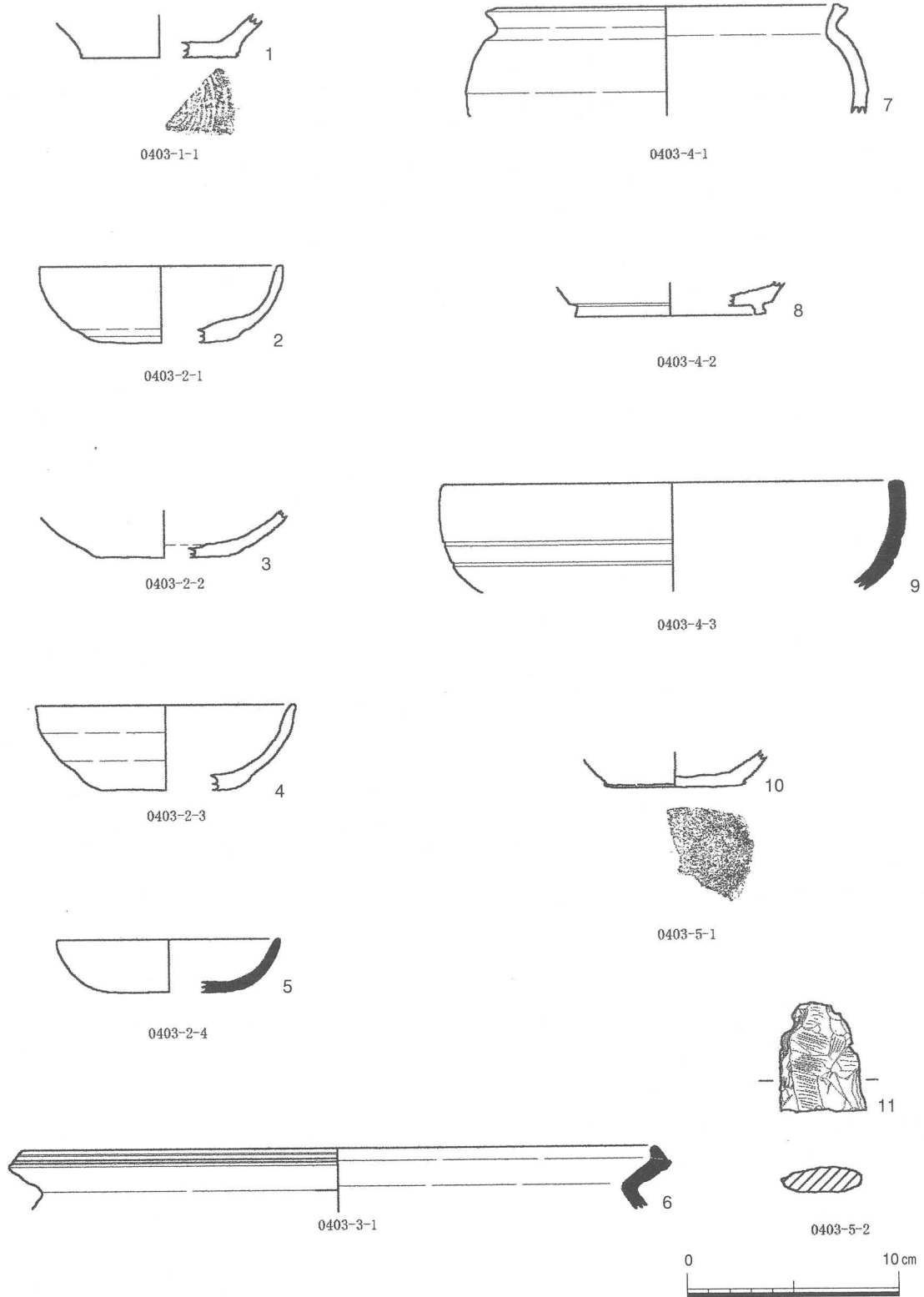
図 49 土層断面図



図 50 No. 1 トレンチ



図 51 No. 7 トレンチ



1 No.1 トレンチ、2～5 No.2 トレンチ、6 No.4 トレンチ、7～9 No.5 トレンチ、10・11 No.6 トレンチ
 (1～4・7・8・10 須恵器、5・9 土師器、6 弥生土器、11 石器)

図 52 出土遺物実測図

立岡南遺跡（第3次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町立岡字山崎287番地 他4筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年11月25日～11月27日

5. 調査面積

44.8 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、試掘坪配置図(1/300)、遺物実測図(1/1)

写真記録(デジタルカメラ撮影)、

北緯(34度49分24秒)、東経(134度34分39秒)

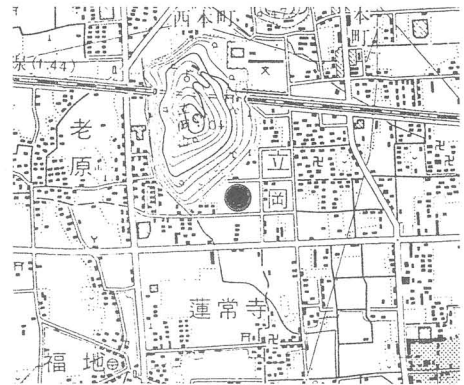


図53 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

今回、同遺跡の包蔵地内である立岡字山崎287番地周辺において宅地開発が計画されたため、遺構の有無を確かめるため確認調査を実施した。一帯は平成7年度に土壤汚染改良工事に伴う確認調査が実施され、柱穴・溝等の遺構が検出されている。

調査地は、標高9.8m前後を測る休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、開発予定地内に3×4mのトレンチを7ヵ所設定して実施した。

調査地は土壤汚染改良工事に伴う確認調査の結果から、床土下の茶褐色土上面と、黄色土地山面の2面に遺構面が存在することが確認されており、今回の調査でも茶褐色土上面での遺構の精査後に地山面までの掘り下げを行った。

調査地の土層は耕土(16cm)、土壤汚染改良土(8～24cm)、茶褐色～灰茶褐色土(6～40cm)、灰色粘質土(8～40cm)、暗灰色粘質土(8～10cm)

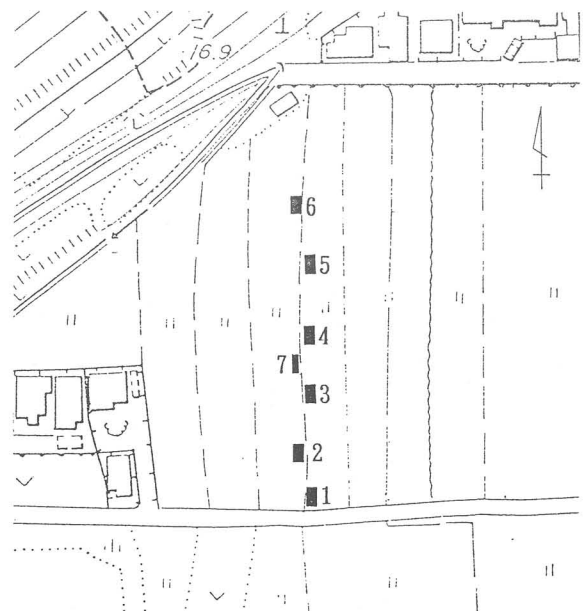


図54 トレンチ配置図(1/2,000)

で淡黄色粘質土・地山となっている。茶褐色土及び地山面とも遺構は検出されなかった。

遺物は、No.4・5トレンチの灰色粘質土層から土師器と須恵器片が出土しただけである。

9. まとめ

調査の結果、遺構は検出されなかった。地山面は北方の立岡山側へ傾斜していることが確認され、調査地は後背湿地の縁辺部に位置すると推測される。

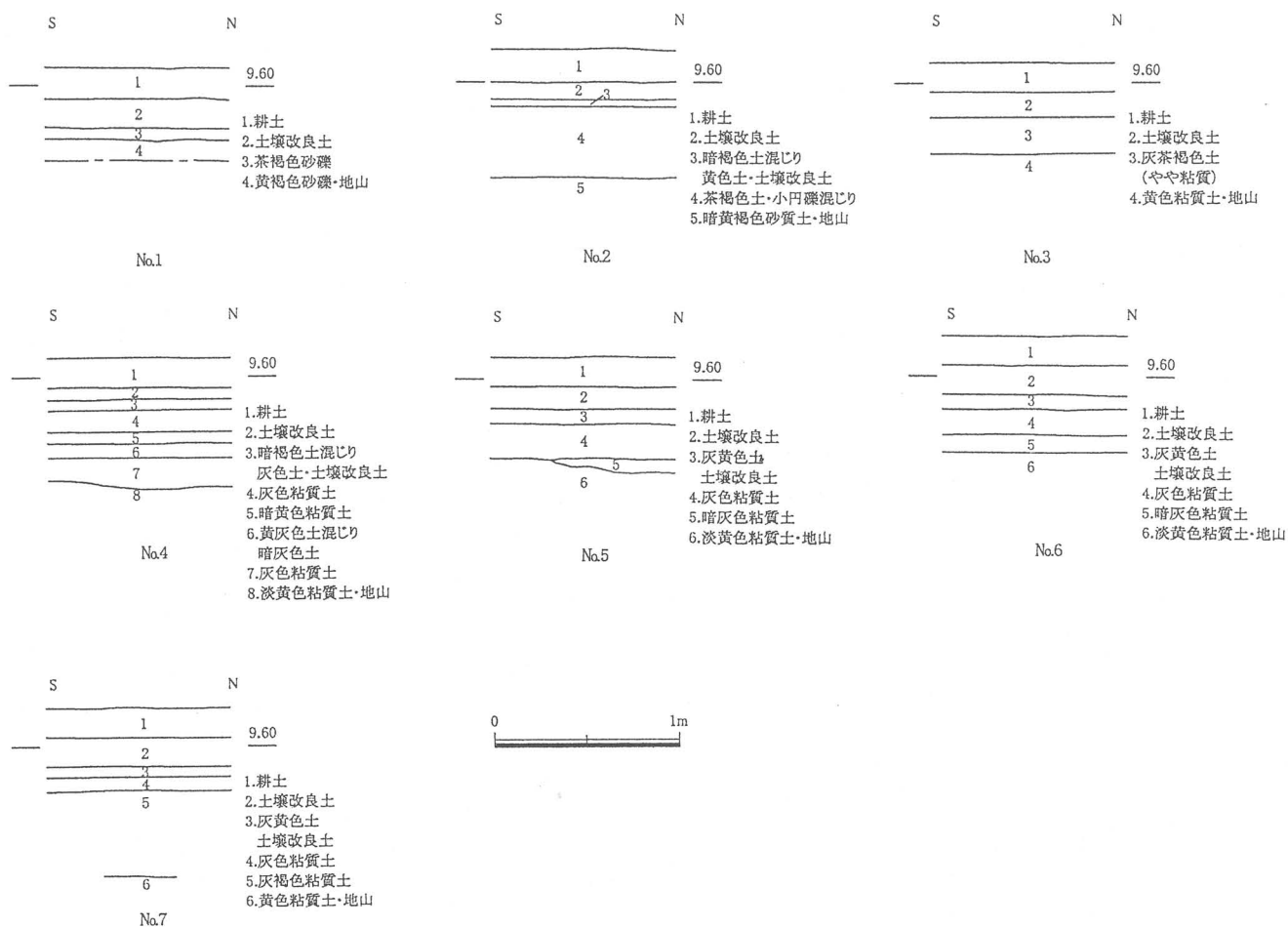


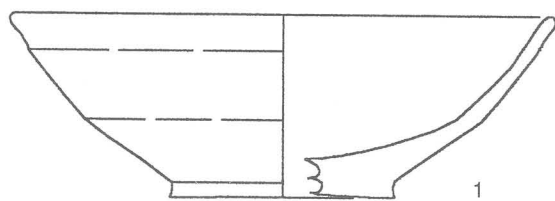
図55 土層断面図



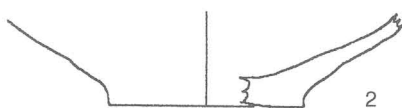
図56 No.1 トレンチ



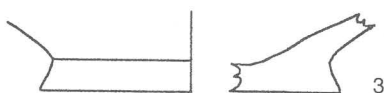
図57 No.6 トレンチ



0404-1-1



0404-1-2



0404-2-1



1・2 No.4 トレンチ、3 No.5 トレンチ

図 58 出土遺物実測図

東保遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東保字中ノ壺445番1 他

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成16年12月9日～12月10日

5. 調査面積

37m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、試掘坪配置図(1/250)、写真記録(デジタルカメラ撮影)、
北緯(34度49分56秒)、東経(134度35分27秒)

7. 調査に至る経過

今回、東保遺跡の包蔵地内である当該地において、宅地開発に伴う造成工事が計画されたため、遺物包含層及び遺構の確認を目的に試掘調査を実施することにした。調査地は、標高11.5 m前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内に2×3 mの試掘坪を6ヵ所設定して実施した。

調査地の基本土層は、上層から耕土(約20cm)、黄灰色土・床土(6～14cm)、灰色粘質土(2～10cm)、暗灰色粘質土・一部小円礫混じりである。

暗灰色粘質土は、ボーリングステッキによる検索の結果1 m以上の厚さを持つことが確認されたが、No 1・4坪では50～70cm下層で礫層にいたる。

9. まとめ

調査の結果、遺構は検出されず、遺物も耕土表面で須恵器片1点を採集しただけである。土層の

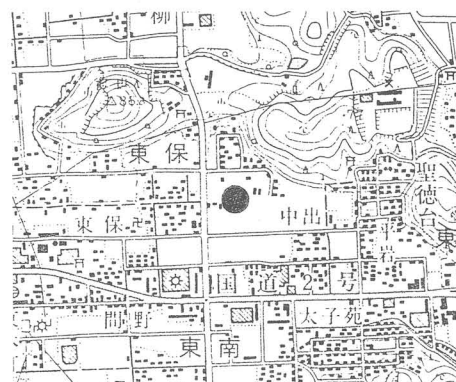


図 59 調査位置図(1/25,000)

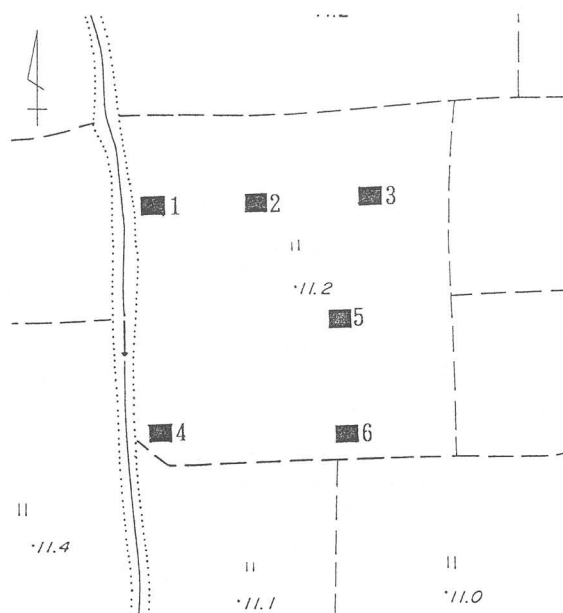


図 60 試掘坪配置図(1/1,000)

状況は、灰色粘質土及び暗灰色粘質土が厚く堆積していることが確認され、平成15年度に実施した東側での試掘調査においても同様な状況を呈していたことから、調査地一帯は後背湿地あるいは埋没旧河道の一部にあたると思われる。

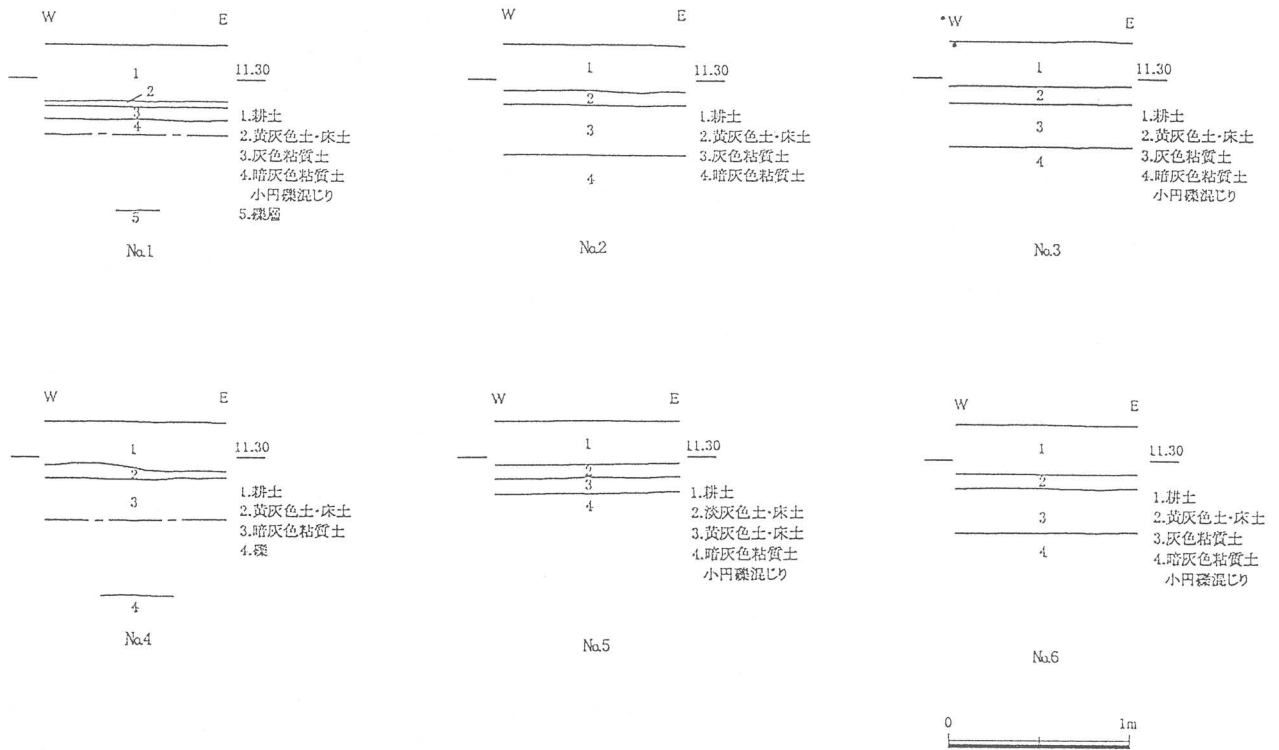


図 61 土層断面図



図 62 No. 1 坪

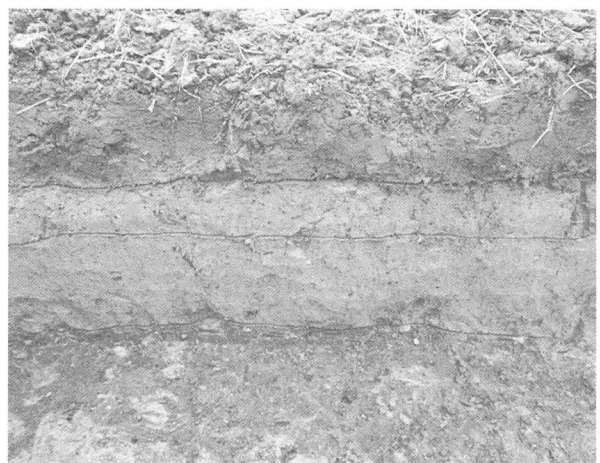


図 63 No. 3 坪

報告書抄録

ふりがな	たいしちょうまいぞうぶんかざいちょうさほうこく
書名	平成15・16年 埋蔵文化財調査年報
副書名	
巻次	
シリーズ名	太子町文化財資料
シリーズ番号	第73集
編著者名	三村修次 海野浩幸
編集機関	太子町教育委員会
所在地	〒671-1561 揖保郡太子町鶴1369-1 TEL.0792-77-1017
発行年月日	西暦 2005年

平成15年度

遺跡名	斑鳩寺西遺跡						
所在地	揖保郡太子町鶴字榎ノ本346番地-1 他1筆						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 59"	134° 34' 36"		2003・12・15	41.7	宅地開発
450010	450009				~12・24		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
斑鳩寺西遺跡	集落跡	弥生時代~中世	溝	土師器・須恵器・白磁・土錘			

遺跡名	船塚遺跡 (第2次調査)						
所在地	揖保郡太子町鶴字船塚219-6、8						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 41"	134° 35' 35"		2004・2・9	13.6	公会堂建設
450010	450225				~2・12		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
船塚遺跡	集落跡 古墳	古墳時代		弥生式土器・須恵器			

遺跡名	東南遺跡 (第20次調査)						
所在地	揖保郡太子町鶴字須門坊72-1 他9筆						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 44"	134° 34' 58"		2004・2・18	174.8	宅地開発
450010	450081				~2・27		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
東南遺跡	集落跡	縄文時代~中世	土坑・ピット	須恵器・近世陶磁器			

遺跡名		東保遺跡 (第2次調査)				
所在地		揖保郡太子町東保字木森403番1 他7筆				
コ一ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 53"	134° 35' 24"	2004・3・1	48.9	宅地開発
450010	450078			~3・3		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東保遺跡	集落跡	弥生時代~中世	溝	弥生式土器		

遺跡名		東南遺跡 (第21次調査)				
所在地		揖保郡太子町鶴字下河原52番1の一部、53番1の一部				
コ一ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 42"	134° 34' 59"	2004・3・15	183.7	宅地開発
450010	450081			~3・25		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東南遺跡	集落跡	縄紋時代~中世	ピット	縄紋式土器		

平成16年度

遺跡名		東南遺跡 (第22次調査)				
所在地		揖保郡太子町東南字佐田60-1				
コ一ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 39"	134° 35' 6"	2004・5・11	28	宅地開発
450010	450081			~5・12		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東南遺跡	集落跡	縄紋時代~中世				

遺跡名		東保高田遺跡				
所在地		揖保郡太子町東保字宗田136番1				
コ一ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 54"	134° 35' 12"	2004・5・24	38	宅地開発
450010	450079			~5・27		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東保高田遺跡	集落跡	弥生時代~中世	溝	弥生式土器・土師器 須恵器		

遺跡名		川島遺跡 (大津茂川床遺跡周辺)				
所在地		揖保郡太子町太田字アンメ2282-1 他5筆				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 37"	134° 36' 05"	2004・8・2	106	宅地開発
450010	450092			~8・5		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
川島遺跡	集落跡	弥生時代~中世		弥生式土器・須恵器		

遺跡名		蓮常寺北遺跡				
所在地		揖保郡太子町蓮常寺字一ノ宮106番6				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 17"	134° 34' 41"	2004・10・1	93	宅地開発
450010	450212			~10・8		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
蓮常寺北遺跡	集落跡	弥生時代~中世		弥生式土器・土師器 須恵器		

遺跡名		立岡南遺跡 (第3次調査)				
所在地		揖保郡太子町立岡字山崎287番地 他4筆				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 24"	134° 34' 39"	2004・11・25	44.8	宅地開発
450010	450205			~11・27		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
立岡南遺跡	集落跡	弥生時代~中世		土師器・須恵器		

遺跡名		東保遺跡				
所在地		揖保郡太子町東保字中ノ壺445番1				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 56"	134° 35' 27"	2004・12・9	37	宅地開発
450010	4500078			~12・10		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東保遺跡	集落跡	弥生時代~中世		須恵器		

平成15・16年度 埋蔵文化財調査年報

発行日 平成18年3月31日

発行 太子町教育委員会

兵庫県揖保郡太子町鶴1369-1

電話 0792-77-1010

印刷 合名会社 柳生印刷所

